

山陰線石見江津驛前

木炭木材商
陶器海運業
米穀大豆肥料
豆粕直輸販賣

志園部清之助商店

電話長十三番電略(ソセイ)
振替口座下關四八七五番

山陰線石見江津驛前

薪炭問屋 日高勇商店

長電話十四番電略(ヒ)
振替口座大阪五三五八〇番

山陰廣瀨町移出商

土屋伊右衛門商店

黒田萬次郎商店

近藤久太郎商店

吉田善之助商店

山陰輸出木炭商同盟會員

(次第不同)

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 鳥取市前 | 足立 | 鹿島 | 小野 | 合資 | 柴田 | 恩田 | 佐々木 | 金山 | 山城 | 高田 | 杉本 | 折坂 |
| 鳥取縣西伯郡境港 | 鳥取縣日野郡上石見 | 鳥取縣日野郡生山 | 鳥取縣日野郡黒坂 | 鳥取縣日野郡黒坂 | 鳥取縣日野郡黒坂 | 鳥取縣日野郡江尾 | 鳥取縣能義郡安來町 | 鳥取縣能義郡安來町 | 鳥取縣能義郡安來町 | 鳥取縣能義郡安來町 | 鳥取縣能義郡安來町 | 鳥取縣能義郡安來町 |
| 政治 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 | 支店 |
| 足立 | 近藤 | 吉田 | 黒田 | 長谷川 | 藤原 | 寺津 | 高砂 | 杉原 | 石田 | 江津 | 江津 | 江津 |
| 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 |
| 力造 | 伊右衛門 | 久太 | 萬次郎 | 木炭部 | 木炭店 | 三郎 | 太郎 | 一郎 | 太郎 | 太郎 | 太郎 | 太郎 |
| 後藤 | 園部 | 中田 | 土屋 | 福原 | 丸武 | 横田 | 桂宗 | 西村 | 石州 | 波多野 | 波多野 | 波多野 |
| 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 |
| 市助 | 清一 | 寅一 | 支店 | 利昌 | 商利 | 傳二郎 | 健八 | 會社 | 會社 | 達次郎 | 達次郎 | 達次郎 |
| 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 | 鳥取縣能義郡廣瀬町 |

木炭改良指導販路斡旋

島根縣邑智郡木炭同業組合

本組合は木炭販路擴張の施設の一端として左記兩店を本組合の指定問屋に選定致候

島根縣那賀郡江津驛前



江津商業株式會社

社長 武田 常太郎

島根縣那賀郡江津驛前



福原利昌商店

石見八名式改良角俵

島根縣那賀郡濱田驛前

加 桂 商店製炭部

電話長百五十五番

山陰改良木炭移出

島根縣大社町

㊦ 杉原周一郎商店

長電話百十四番

製炭所
出張所

簸川郡内美濃郡内各所
石見益田、長濱、都茂、江南

山陰改良切角菅俵

島根縣簸上線木次驛前

木炭輸出商

三

長谷川木炭部

店主

長谷川宇太郎

長電話 五番 電略(ハセ)

山陰線穴道驛前

薪炭問屋
紀州製炭
改良炭

列 高砂勝太郎商店

電略(カネタ)又ハ(タ)
振替大阪六〇四〇六番

炭 卜 薪

山陰線石見江津驛前

鐵道省
公認

分 後藤運送部

分 後藤博市商店

長電話二五番電略(ヤマカ)

支 店

山陰線濱田驛前後藤支店 長電話一四〇番
山口線石見益田驛前後藤支店電略(ヤマカ)
山口線津和野驛前後藤支店 長電話一〇番
山口線徳佐驛前後藤支店 電略(ヤマカ)

木炭も薪も御好の品如何なる

大量の御注文にも應じ可申候 陸續御注文を乞ふ

石見國江津港五十六番

薪炭板材
製紙材料
木附子
繭生糸

介横田九一郎商店

電話江津十四番

電略(ヨ)又は(ヨコ)

特に木炭の生産供給に努力致し居り候

鳥取縣根雨町

本店 近藤喜兵衛本店

電話長二番

鳥取縣根雨町

林業部 近藤林業部

電話長三番

大阪市西區靱南通四丁目

支店 近藤喜兵衛商店

電話土佐堀長 五六九 七八九 七七六 七八八

山陰線米子町

薪炭移出問屋

安田虎太郎

電話 三五二番

山陰各地產木炭移出

山陰線出雲今市驛前

商標



山陰製炭株式會社

電話三三八番 電略(タン)
振替口座大阪四八四三二番

石州木炭移出

石見濱田町八日會員

西村健八 桂商一店
小林兼一 後藤支店
齋藤支店 石州株式會社

山陰線米子町

薪炭上杉繁次

電話四三八番

改良白燒黑燒製炭移出

山陰線京都府和知驛前



林田薪炭株式會社

電話十七番、電略(マキキ)
振替口座大阪五三四四八番

手山經營壹角正四貫

山陰線園部驛前

專用
商標



森利三郎商店

電話和知三番出張所和知驛前

東京川崎市長谷川支店賣品特約製造元

白炭黒炭生産移出商

京都府北桑田郡鶴ヶ岡村

品質本位

合資
會社 仲

田商店

振替大阪三五五二四番
電話鶴ヶ岡四番

代表社員 仲田芳三郎

福井縣

若狹物として品質の優秀を誇れる福井縣は年産額九百萬貫内外の數量を示し山陰木炭が關東市場へ販路を擴めざりし以前にありては横濱市場の如きは若狹木炭とは密接の關係を有し東京が東北を望むが如く横濱は若狹に負ふ所大なるものありき、然るに現今にありては山陰に壓倒せられたる傾向ありて横濱市にては數店の問屋に於て取扱ふに過ぎざるの狀なり、然るに川崎市の如きは之に反して消費量の大半は若狹物に待ち東北へも山陰へも眼を傾けざるが如き現況なり、産額よりせば若狹に亞ぐは大野にして、今庄、勝山、武生、敦賀の順序なり、製品は北陸物の特徴たる薬角俵にして一俵量目は若狹は正味四貫に統一せられ其他は何れも正味五貫にして切角造りなり左に各地を區分し略述せん

小濱 生産地は遠敷、三方、大飯の三郡に跨り年集散額三百萬貫に達す大正七年に開通せる小濱線は木炭輸送の上に便益を供せり、品質最も優良にして北陸全線を通じて此地移出木炭の右に出づるものなしと云ふも過褒ならず、移出商には平井長太郎、前田安太郎、安藤久七、吉田治三郎、一潮繁次郎の諸店あり

敦賀 往年に比し産額著るしく減少し現今には他地産に頼せらるゝ傾向あり此地移出商に依つて取扱はるゝ數量は一年十四五萬貫に過ぎざるべく、南條郡の一部と大野郡の一部と隱岐島産が山陰線より移入するの程度なり、移出商には大島太郎治、綱島榮次郎、家高政吉、比田森太郎の諸店を數ふ

武生 此地に集散し移出さるゝ木炭の産地は今立、丹生、南條の三郡よりの産にして年額百萬貫内外なり、仕向先は横濱、名古屋、東海道、中央線、八王子方面の消費都市なるが、近時山陰木炭の爲に販路を奪はるゝの傾向なるを以てそれが展開策に就き先づ製品をして生産費の軽減を以てする等當業者には策動怠らざるが如し、移出商には天崎商店、安藤商店、田中嘉重、梅田吉三郎、中矢萬之助、木村信二の諸店あり天崎商店は小松驛に出張所あり、山陰伯備線生山の雲起商會も同氏の參與せるものなりと

今庄 北陸線今庄町は敦賀と武生との中間に位し越前木炭同業組合の地區に屬し製品は藥角正味五貫造りなり、逐年薪炭林の不足に依り當今にては南條郡より産するものゝみにして一ヶ年移出額百萬貫内外なり、仕向地は横濱と東海道沿線の消費地にして尙稀に正味四貫の藥丸俵あり京都方面へ仕向く、移出商には合名會社丸一商店次に田中又右衛門の兩店を主とす

大野 年移出額黒炭七十萬貫、白炭二十萬貫内外を産出し黒炭は正味五貫藥角俵にして白炭は正味六貫造りを以てせり、生産地は西谷、五個、上下穴馬、上庄、坂谷の各村にして福井縣下を通じ薪炭林豊富の地なり、品質亦優良なり、移出商には廣瀬啓藏、宮本喜平、山下鐵藏、高瀬清次郎、松田米吉の諸店あり

勝山 勝山町薪炭移出商組合は生産地と提携して改良に努め居るを以て其製品の聲價は大野物を凌駕するの形勢なり唯薪炭林の過伐に依る不足を遺憾とせん一ヶ年移出量は二十萬貫内外ならん、移出商には土屋市太郎、中村三作、下槇和吉の諸店あり

福井市 人口五萬を算する消費都市にして越前木炭同業組合事務所々在在なり、此の地へ供給せらるゝ産地は大野、坂井、足羽、吉田、丹生の各地産にして一ヶ年の消費量は百二十萬貫に達せり薪炭問屋としては金子市郎兵衛、前川吉兵衛、櫻井甚松、竹内耕作、戸井清右衛門の諸店にして稀れに縣外移出をも營むと共に近時北海道、山陰方面よりの移入をも仰ぐ

川端與兵衛商店の閱歷

福井縣南條郡大野村赤荻木炭移出商川端與兵衛氏は敦賀、武生の兩驛より越前角俵木炭を京阪地

方へ供給し聲價を認めらるゝと共に氏の信用を博し今日の地盤を築成するに至れるが、氏は三十歳の時木炭業の好望なるに着眼し、角俵造りの長所に富めるを究むるや、其移出にかゝる木炭は正味五貫角俵となし、創めは京都、伏見、宇治地方へ販賣し、誠實業に従へるを以て取引先よりの信望一層加はり販路は次第に擴張すると共に、販賣の手を横濱へ延長し更に東京市場とも取引を結ぶに至る、令息與三松氏あり克く家商に努め相俟つて營業の店基を鞏め越前木炭界の重鎮として自他共に容るすに到る、氏は公共の事にも盡し、越前木炭同業組合の創立にも與つて力ありと云ふ

石川縣

石川縣に於ける年産額は福井縣と匹敵し其品種も同様にして藥角俵正味五貫を以てせり、木炭改善施設として羽咋、鹿島、石川の各郡に同業組合の設置ありて經營怠らざるものありしも、縣當局の方針とし石川縣木炭の聲價を向上し販路を擴めんには一郡一郷の改善施設のみ完成せりとも各郡之を爲さざるに於ては目的の達成遅々として進まざるべしとし奮然起つて縣營に依り木炭の検査を實施し既設同業組合は僅かに影を止め唯改良指導方面と組合員間の和衷結束に努むることとなりたるが、官憲的取締検査は自覺に乏しきものを導き且一面不正手段を以てせるものゝ如き輩を驅除し得

らるゝが故に製品の統一は同業組合に依つて検査を行ふ當時に比し遙かに勝るが如き傾向あるは、是生産者の多くが自治の心に乏しきを物語るに均しと云ふべし、之より左に同縣に於ける主要なる移出驛の状況を案内することとせん

鶴來 鶴來町は金澤市外なる野々市より電車の便あり約二時間にして到る、縣下主要の移出地にして年額二百五十萬貫に達せん製品は正味五貫藥角造り黒炭にして横濱、神奈川、千葉、埼玉、東京、東海道沿道へ仕向く、産地は石川、能美の兩郡にして林源比較的豊富なり、移出商には株式會社大成堂、齋藤久次郎、川合伊三郎、高田良平、汐井彙松、坂野商店、酒井甚太郎の諸店を數ふ

小松 能美郡大杉谷及西尾の産此驛より移出さる、品質は武生物と酷似し聲價あり年移出額百萬貫を示す、仕向地は横濱、鎌倉方面、八王子方面を主とし其他點々各地に供給されつゝあり、移出商には天崎商店出張所、瀧本乙次郎の兩店あり、尙ほ此地方に消費さるゝもの年額五十萬貫と稱せられ北海道の大俵、隱岐木炭等各所に散見す

高松 生産地は羽咋郡内河合谷、南大海、北大海にして藥角正味五貫黒炭多く年移出額五十萬貫内外を示す移出商としては加藤一政商店が獨占的に活躍し京濱市場及び千葉縣方面へ仕向く

七尾港 鳳至郡宇出津町、中居村、鷗川村等より集中する木炭の中繼移出地にして年額二百萬

貫を算し、東京、埼玉等へ供給す、移出商には山口繁二、能登物産合名會社の兩店あり
中島村 年移出額五十萬貫を算し、山岸彌平、山道周藏、森四郎右衛門の三店あり移出を司る、
 産地は富來地方を最多とし、品質良好なる黒炭の角俵を産す、往昔は量日不統一なりしも縣營検査に
 より統一さる

穴水港 此地は林源地最も近く二里内外の地より薪炭林あり白炭六分黒炭四分の割合にて生産
 す、東京、埼玉、千葉、神奈川、富山等を仕向地とし、北川七郎右衛門、西川彦六、田中榮藏、大
 橋松太郎、西海峰吉、橋爪彦三、北川政次郎、橋本政七郎、橋本茂三郎、七海勇五郎の諸店移出を
 司る、

中居港 同地へ集散し消費都市へ仕向けらるゝ木炭の數量は年額百萬貫内外にして生産地は南
 北、三井、鶴川の各村にして大部分白炭正五貫九俵造りなり雜堅にありては藁俵を以てせり、量目
 は石川縣木炭検査規則に依る、此地方は林源比較的豊富にして樹齡六十年程度のもを資材に供せ
 しが漸次過伐の傾向となり現今にては二十年内外の若木多し、従つて品質亦優良なり、而して近來
 黒炭角俵を獎勵するの傾向にて次第に其數量を増加すると共に白炭の産額は減少しつつあり供給先
 は東京、埼玉、神奈川の各地を主とし、移出を営むものに勝木長四郎、室木助七郎、森腰新太郎、

菅原五郎の諸店を數ふ

宇出津港 年移出額五百萬貫内外を算し石川縣下に於ける主要なる移出地にして全縣産の半數
 は此の地より移出さるゝの情勢なり、品種は蘆造角俵楠正味五貫雜正味四貫にして樹齡二十年前後
 の若木の資材とするもの多ければ品質も佳良なり、移出は七尾港より汽車積とし富山縣下消費地を
 主とし、東京、横濱、鎌倉、新潟縣寺泊、直江津、金澤市等へ尙ほ長野縣下へも供給す、移出商に
 は村山久太郎、藤田長次郎、橋本久平の諸店重きをなす

金澤市 消費地にして縣外より移入さるもの多けれども、一面にありては同地商人の手に依つ
 て鶴來、大樋、小立野方面の産を縣外に移出す、春田久次郎商店、金澤薪炭株式會社、小立野の武
 與四郎商店等移出を営むあり

富山縣

富山縣の木炭界を紹介せんとせば先づ其主産地なる上新川郡の笹津を筆頭とし亞ぐに婦負郡八尾町
 氷見郡氷見町を以てするを便とせん、同縣一ヶ年産額約四百五十萬貫中、笹津は十五萬貫八尾は二
 萬五千萬貫氷見は五十萬貫程度なるも、關東市場就中横濱方面より白炭の移出地として取引の繼續

さるものは笹津及八尾町の二ヶ所を専一に數ふ

笹津 は正味四貫目の製品案依なり同地へ集中する産地は上新川郡内並に岐阜縣吉城郡坂下村より飛彈に亘る連峰にして樹種は雜木多く品質優良なり、鐵道開通以前は富山市へ販賣し居りしが大正六年輕鐵線の開通と共に直接縣外へ供給するの機運到り、現今にては東京、横濱を始めとし千葉、埼玉、群馬、静岡、愛知、岐阜、新潟、石川の各縣下へ供給す、移出商には笹津物産株式會社池上兼治、中谷幸一郎、竹中竹次郎、石橋幸次郎、池上源、澤田幸之助、朝野辰次郎の諸店あり

八尾 富山驛より移出する生産地は婦負郡内にして櫛八分雜二分の割合にて樹種優良なり製品量目は笹津と同様にして、仕向先市場も略ほ同じ、移出商には大坪甚太郎、福島長次郎、吉友滋次郎の諸店あり

氷見 黒炭蘘造角俵正味五貫物を移出し年額五十萬貫を示す、生産地は氷見郡一圓にして櫛、雜相半ばせり、仕向先は東京郊外、横濱、埼玉、長野の各方面にして、移出商には前田安太郎、茶山外吉、青野善七、本江清次郎、直江源太郎の諸店あり

木炭移出商

若狹國三宅驛前

勢馬清兵衛支店

本店 若狹國熊川

木炭製造移出

福井縣敦賀港三島

網島榮次郎商店

電話長四四九番

取引銀行 大和田銀行、敦賀銀行

木炭問屋

越前國敦賀港大湊

大島商店

電話長二一六三番

振替東京四八〇八九番

木炭移出販賣

越前國武生驛前

天崎商店

電話 二一六九番

振替金澤 三四二二

支店 加賀小松、出張所 越前大野口

木炭製造販賣

福井縣今庄驛前



合名會社

丸一商店

電略發(〇一)

木炭問屋

富山縣笹津

池上源商店

電略(イケ)又は(イ)

木炭木材製材

石川縣鶴來驛前

株式會社

大成堂商店

電話六十四番

木炭石炭割木

北陸線金澤驛前

金澤薪炭株式會社

電話七二一 電略(〇ス)
振替金澤一七六二番

薪炭問屋

能登國中居港

① 勝本商店

店主 勝本長四郎

電略(カツ)又ハ(カ)

木炭移出商

石川縣多出津町

又村山久太郎商店

電話三十七番

薪炭雜穀問屋

石川縣宇出津町

長藤田長次郎

電話四十八番

木炭米穀肥料

富山縣氷見町

今前田安太郎商店

電話百八番

木炭問屋

金澤市森下町

又春田久一郎

電話一六四一番

薪炭問屋

七尾線高松驛前

翁加藤高松支店

電話十五番

薪炭問屋

金澤市上石引町十一

武伊三郎商店

電略(タケ)又ハ(タ)

薪炭製繩

能登國中島村

山岸彌平商店

電話本店六三番支店十三番

木炭問屋

富山縣氷見町加納

茶山外吉商店

電話四十番

木炭製産移出

越前今庄驛前

田中又右衛門

電信略號(〇又)

木炭繩蒔問屋

若狹國小濱町清瀧

標商 平井長太郎商店

電話三十八番電略(〇一)

笹津産木炭移出

富山縣笹津

池上 桑治 商店

電話 笹津 九番

木炭問屋

越前武生驛前

安達 商店

電話 四二四番
電略(ア)又ハ(アタ)

薪炭移出 富山縣氷見町 青野善七商店

木炭小羽 富山縣八尾町 瀧本乙次郎商店

薪炭移出 富山縣魚津大町三六 鳥切松次郎商店

木炭商 富山縣敦賀港大湊 家高政吉商店

富山縣八尾町

木炭輸出問屋 大坪甚太郎商店

福井縣大野郡勝山町

木炭輸出商 土谷木炭部

電話五一番、電略(ツ)

新潟縣

總説

本縣年産額は一千五百萬貫を數へ多くは白炭にして黒炭は西頸城郡の一部と岩船郡の一部にてありしが九州支那木炭の打撃を受け且製炭歩合の關係より黒炭獎勵の氣味なきに非ず古き歴史と沿革ある津川の如きが近時黒炭の製出さるゝあり然れども新潟縣木炭として聲價を保ち得るは白炭にして津川、西頸城、岩船の如きは中央市場に供給しつゝありて津川は正味四貫と十貫以俵と最近に至りて八貫を認め西頸城郡は五貫と八貫の二種に統一され、岩船郡は五貫と十貫にして、津川、村上方面よりは近、黒炭角俵の製出さるゝ傾向となり來れり、而して新潟縣の地味は森林に適し佐渡郡を合し面積八百二十七方里の七割までは森林にして雜木林も又概して豊富なれば新炭の供給地として刮目さる、之より鐵道沿線の順序に従ひ信越本線中頸城郡田口驛より情況の一斑を概報することゝせん

田口驛 中頸城郡名香山村にして木炭移出額白炭年十萬貫薪四百噸を産す産地は黒姫山を主とし白炭味八貫俵、薪は丈一尺四寸束廻り三人を普通とせり移出商には川久保松藏商店あり他は副

業的の業者を以てす

新井町 西部は矢代、高野の兩村東部は水原、平丸の兩村是等を生産地とし白炭年産額三十五萬貫を數へ此地商人の手に依つて高田市の消費に充つるもの多し、同地は一面消費地なるが故に同郡内産の一部を充つるの外尙ほ縣内は西頸城郡産を、縣外は長野、遠くは秋田、岩手方面より又稀れには九州山陰物の姿をあらわすに見て、中央市場への供給は相場の不引合にて稀れに移出するに過ぎず多くは土地其他縣内消費に充つ

薪炭問屋 とし移出商としては、田中正作、早津倉次郎、入村清一郎、山岸喜次郎、和田英一、和田新吉の諸店を數ふ

高田市 此地は榊原氏十五萬石の舊城趾なるだけに人口も約五萬を算し、第十三師團の兵營地、官衙學校等、木炭の消費量年額黒炭十萬貫を示し附近も又消費地にして新井町方面又は西頸城郡産の供給を受け、尙東蒲原郡の白炭、青森縣八戸の黒炭、北海道産、山陰物等の供給をも仰ぐの狀態にあり

薪炭問屋 としては山下五郎三郎、中島誠吉、種岡徳次郎、大島竹松の諸店あり、薪炭販賣業者としては高田新炭商組合員八十名を示し居れり

直江津町 北越本線と信越本線との分岐点にして消費地たり同地に伊藤六藏商店ありて土地消費を取扱はるゝ外稀れに移出をも營む、年消費三十萬貫内外にて縣内産の外、富山縣産、北海道大俵山陰産の入荷をも見る、人口一萬三千を數ふ

北陸本線

西頸城郡木炭同業組合地區内は青海村を主に能生谷、小浦、根知、上早川、名立、上路の各村を主産地とし年産額二百八十萬貫に達すべし、今其主要なる移出驛を紹介せん

名立驛 名立森林組合の共有林二千町歩に對し輪伐法に依つてす白炭五貫八貫俵の二種年移出二十五萬貫を示す、移出商には岡崎泰治、塚田利三郎、平原三太郎、徳田大吉の諸店あり直江津、高田へ仕向くる外東京及び近縣へ供給す

能生驛 名立と積々伯仲する數量なり生産地は能生谷、磯部、木浦にして中頸城郡界の地は薪炭林に富み前途に望あり、移出商には山崎佐次郎、齊藤清吉、大貫芳松の諸店あり尙ほ木浦村に佐藤徳八、磯部村に大瀧瀧次郎の兩店あり

梶屋敷驛 移出年額十三萬貫内外にして移出商には吉岡八十吉商店あり、温河内村に至りては

原初次郎、北山村に霜越勘五郎、下早川村に清水勝次郎の諸店を數ふ、東京、埼玉の縣外移出をなす、産地は上早川村飛山村方面良品産出多く深山に進めは生産額の増加を見る難からずと雖も大正七八年の好景氣時代に於て過伐せる爲め更新林に待たざれば現在以上の量を求むるは不可能なるべきか

糸魚川驛 此驛より移出する製品の産地は根治、小港、今井、西海、大野の各村にして長野縣北安曇郡産の官有林よりせる大焚物も此驛に集散し年移出額黒炭十萬貫内外白炭七十萬貫の量を示せり、此地の前途は糸魚川より信濃大町に通ずる鐵道敷設實現せば前途好望の地となるべし、縣外は東京、埼玉、茨城方面へ仕向く

移出商 吉田豊治、風間喜作、林清藏、猪又勝次郎、武田武治、子田長吉、猪又作治、高尾清次郎、橋本儀一、黒坂新太郎の諸店を數ふ

青海驛 年移出額黒炭七萬貫、白炭四十萬貫内外に達し薪炭林の蓄積豊富なり量目は西頸城郡木炭同業組合の定款に従ひ包装は壹と藥の二種なり、移出商には青海木炭株式會社の外糸魚川驛の猪又勝次郎商店の出張所を主とす

市振驛 此驛へ集散の産地は上路村山林と富山縣に境せる大平村方面にして薪炭原料林は無限

に豊富なれども林道の便開けざる爲黒炭に於て年額一萬四千貫白炭に於て十二萬貫内外を示せり
移出商には建部定吉、建部助次郎、建部七太郎、米田丹次郎の諸店あり

信越本線

柿崎驛 中頸城郡柿崎製炭販賣組合の改良に努力するあり年移出額白炭七萬五千貫を算し大俵
と小俵の二様あり、平野熊太郎、長井時太郎、椿赤助、馬場半吉、草間清吉の諸店ありて大正七年
の交までは群馬、埼玉、東京方面へ縣外移出せしも土地消費量の増加と産額の減少にて直江津方面
に供給する外に土地消化に充つるの程度に過ぎざるが如し

柏崎驛 刈羽郡の都邑にして消費地なり櫻井長八郎、桑山茂助の兩薪炭問屋あり、西頸城郡糸魚
川能生及佐渡郡等より供給を受くるも近時九州より旺んに移入せらるゝ情勢にあり

鉢崎驛 鉢崎製炭改良組合は夙に改良を奨勵し正五貫壹俵白炭、年移出額七萬貫内外を東京、埼
玉、群馬の各地へ仕向く、隣接青海川驛よりも同質の製品一ヶ年七萬貫内外の移出あり、海岸に面
せる硬質の原料資林より製出せるものは質良好にして聲價高し、移出商には村山禹太郎、村山榮次
郎、中山三千三の諸店を數ふ同地には茂田井豐吉氏あり製炭の技術に長じ製炭の教師として各地奨

勵 導に盡瘁せし功は同地産の聲價を向上せしめたる動因と謂ふべし

北條驛 正味八貫壹包裝多く年移出額五萬貫を算す、樹齡十五六年の若木を資材に供する製品多
ければ良質を以て聞ゆ、移出商には瀬下平吉商店あり

寺泊町 三島郡にして長岡驛より長岡鐵道に搭乘し終點の地なり、良港にして佐渡との取引頻繁
にして佐渡木炭全産額の約四割は此地に陸揚せられ、三條、加茂方面の消費地まで供給す、大正九
年の交までは縣外へ移出されしも地元高價の爲不引合となり反つて九州北海道の移入を仰ぐ情況さ
へ窺はる、外山勘兵衛商店を主に、小林、河忠の兩薪炭問屋あり

長岡市 面積七十二方里人口五萬新潟市に亞ぐの都邑にして戰時工業全盛の砌は年消費額七百
萬貫に達せしも今は工業衰退して家庭用を主とするが爲に約三百萬貫の消費ならんか、消費せらる
ゝ木炭は佐渡、津川方面、岩船郡の産、東北魚沼の産を主とし、縣外産は九州、北海道、山陰等よ
りも供給さる、此の地は魚沼鐵道の起點にして又上越線全線開通の曉は京越連絡の樞要の都會地た
り木炭消費量の如きも漸次増加の趨勢を辿りつゝあり

薪炭問屋 としては金子徳十郎、西脇傳次、竹田竹三郎、新保金平、大平林松、内藤倉吉、鈴木清松の諸店を主
とす

森町村 南蒲原郡森町村荒澤へ集散する木炭は白炭十貫呷入大俵多かりしが近時正八貫と五貫とに改良し良質の木炭年額五十萬貫にも達し縣内は三條町加茂町方面へ主として供給し尙ほ東京市場へも弗々供給する傾向なり、品質は里山若木を除くの外は大焚物多けれども製炭の改良に盡しつゝあれば概して可なるものあり、移出商には渡邊龜吉、佐藤由藏、大崎仁太郎、中山清次郎の諸店を主とす

三條町 三條町はへは移出驛にあらずして消費地なり、往昔鐵工業の旺なりし頃には同町居住民の三割までは鍛冶職なりと云ふ程にて工業用木炭の消費量も多額を算し、縣内の供給以外に北海道九州の産も現に移入を見るの状にして縣内は多くは津川、村上方面より仰ぐものあり、薪炭問屋として小林兵吉、邊良助、高橋玉治、大泉吉松、齊藤正雄、田中豊治、坂井恭平の諸店あり

加茂町 此地も消費地にして近郊を合すれば人口一萬を算すべし、會津東蒲原岩船等縣内外の製品と、北海道、九州方面よりの縣外品にして、年消費量七十萬貫を算すべし、小柳久三郎氏の如き東京市場向一味四貫目俵を製し旺んに移出せしこともあり、同地の薪炭業者としては小柳久三郎、瀧澤増平、阿部太郎、長谷川久作、珊瑚齋司、長谷川要平、小柳重吉、田中徳太郎、西瀧直治の諸店なりとす

新津町 消費地にして石油會社等あり一ヶ年黒炭四萬貫白炭八十萬貫内外を消化す薪炭販賣業者としては宮崎政治、小島長三郎、小島信藏、田邊富藏の諸店あり

新潟市 面積七十九方里人口十二萬を算する縣の首都にして縣治の中心地たり又慶應四年の開港にして其高多からすと雖も海外貿易をなす、木炭一ヶ年の消費量四百萬貫薪五萬棚を示す、此地へ供給さるゝ産地は縣内津川以西の産、岩船、北蒲原、佐渡の各郡産多く又一面北海道産多量に移入し近時支那木炭も供給さる

薪炭問屋 小山谷藏、小木雪藏、小林庄松、土屋幸吉、水野正一、佐々木佐次郎、坂井清資、長谷川勘治、大島廣吉、清野勘吉、菅瀬幸次郎、武田惣四郎、佐藤榮太郎、宮原惣松、江口新三郎、池徳四郎の諸店を數へ沼垂町に眞壁仁三郎、鷺津三吉、神瀬寅吉、藤田鬼一郎の各店あり

上越北線

小出驛 北魚沼郡の木炭は此地に集散し小千谷町、長岡市等へ供給さる産地は湯の谷村の奥部を主産地となす一ヶ年産額七十萬貫薪七十棚を算す、井口龜吉、水野龜五郎、安達仁三郎、櫻井庄平の諸店移出販賣を營む大俵十貫物多し

浦佐驛 年額八萬貫内外を産出し羽賀佐平治、井上庄作、井口清治、牛木菊次郎の諸店あり製品

は小出驛に髣髴せるも稍々品質良好にして同じく大俵十貫物多し

六日町驛 南魚沼郡木炭同業組合は大正十一年六月の創立にかゝり製品は白炭にして四貫、五貫、八貫、十貫の各種にして今成源藏、佐藤繁次郎の兩店移出を司る

湯澤驛 一ヶ年産出額五十萬貫を算し南魚沼郡木炭同業組合の地區なり、三國山麓の密林は上越鐵道の全通と共に開發せらるべき機運に向ひ居れり、高橋清作、高橋六右衛門、高橋義夫、高橋惣吉、高橋恒治、高橋彌吉、宮田廣吉の各商店移出を營む

一日町 五十澤村の産此地に集散し年額四十萬貫を算す、正四貫壹丸俵造多く大俵十貫も産す、移出商には富岡爲八郎、山岸岩藏、青木福治の諸店あり

羽越線

新發田驛 北蒲原郡の郡邑にして人口一萬八千を數へ消費地たると共に郡内産と東蒲原郡産の一部とが此地に集散し、又岩船郡産の黒炭も供給せられ年消費量五十萬貫を示すと共に郡外移出量又五十萬貫内外に達せん、薪炭問屋には木村善作、五十嵐久四郎、坪谷嘉太郎、相馬清造、高橋善平、金子留四郎、灘波勇吉、保刈勳次の諸店あり

中條町 郡内産白炭年額十五萬貫内外の集散あり相馬慶作商店の獨舞臺の地たり

坂町 岩船郡女川村の産と山形縣小國村の産集散し中條町相馬慶作、新發田町坪谷嘉太郎氏の出張所あり年産額七十五萬貫と稱せらる、仕向地は新潟市、長岡市等にして縣外は東京埼玉等とす

村上驛 岩船郡産の主要集散地にして年額三百二十二萬貫を示し縣外移出百萬貫内外なりと云ふ、楢六分雜四分の割合にし正味五貫と十貫とあり黒炭三割白炭七割の割合ならんか、移出商には木村又作、村上薪炭株式會社、大沼貞四郎、下妻甚太郎の諸店あり、同業組合は各村に改良組合の組織を勸奨し原料の共同購入、製品の共同販賣等に斡旋し一面検査を嚴格に施行しつゝあり

磐越西線

津川驛 縣下中良品白炭を製出するの地にして東蒲原郡木炭同業組合の地區内なり年移出額二百三十萬貫の多額を算し製品は正味四貫と拾貫呷入の外に最近八貫俵をも認め製出す樹齡は十年より五十年までの所多く若木八分なれば炭材に適す、近時製炭法の改良を熱心獎勵する所ありて大正十四年度には栗城善五郎氏を講師に聘し四ヶ所に講習會を開催する等十五年度に入りても四月一日より楊川村、津川町、五十島村の三ヶ所に實施の豫定なりと言へば製品の面目は自ら改善さるゝに

至るべし主なる移出商は左の諸店なり

移出商 五十嵐茂吉、長谷川文作、長走林業合資會社、矢部貞造、山崎勇、赤城源三郎、齋藤徳吉、皆川巳之吉、三村彌六、小林松吉、佐藤三吾、馬場源次郎

白崎驛 日出谷、鹿之瀬、豊實の各驛と共に東蒲原郡同業組合の地區内にして製品は津川と同質同種なり日出谷には長走林業合資會社の事業地あり少量の黒炭をも産出す、白崎驛へ集散の産地は三川村、下條村、西川村等を主とし驛前に皆川作四郎商店を始め數舗あり

佐 渡 郡

佐渡郡木炭同業組合は年産額三百二十萬貫内外を製出する製品取締の上により、白炭七分黒炭三分の割合にして縣外移出となるべき白炭は壹丸俵正味四貫五百目黒炭は壹角俵造となす、産地は内海府方面と外海府方面と前濱方面とに區分され内海府方面の産は兩津町に集散する又外海府方面は相川町、高千、金泉の各所に集散され、前濱方面は水津、岩首、松ヶ崎、赤泊、等に集まる、國中方面産は新穂、畑野、眞野、金澤、吉井、二宮の製品にして黒炭多し、佐渡木炭は品質佳良なるものありて河崎、眞野、赤泊、新穂、高千等の産は最も優秀せり新潟、寺泊、直江津方面へ供給する尙

津川産白炭並に土釜角俵

新潟縣津川町

赤城源三郎商店

電話 三番 電略 (アカ)

赤城出張所

磐越西線德澤驛前
磐越西線白崎驛前
新潟市第四銀行

取引銀行

木炭移出商

新潟縣津川町二七三

皆川巳之吉商店

電話 二八番 電略 (ミ)

木炭米穀商

新潟縣津川町

津川喜代治

電話 二十一番
電略 (ツカワ)

會津木炭移出

新潟縣津川町

五十嵐藤吉

電話 三十一番
電略 (カカヤ)

薪炭移出問屋

磐越西線豐實驛前

伊藤源三郎

電略 (マルトヨ)

津川改良木炭

新潟縣東蒲原郡豐實村

玉木市太郎

電略 (タマキ)

木炭問屋

新潟縣津川町

山崎 勇

電話 三十番
電略 (〇サ)

木炭移出

新潟縣津川町

大江保次

電話 十五番
電略 (オエ)

會津木炭専門

新潟縣津川町

長谷川文作

振替東京三五〇六二
電信略號 (ハセ)

木炭問屋

新潟縣津川町

三三村彌六

電話 三十六番
振替東京四參二七五

薪炭移出

磐越西線白崎驛前

△皆川作四郎

電略(サク)

△長問屋

新潟縣新津町田家

小島長三郎

電略(ヤヤチヨ)

○東

薪炭移出

新潟縣日出谷村

渡部谷之助

電略(ワタ)

佐渡改良木炭移出

新潟縣佐渡郡相川町

薪炭問屋 高野瀧藏商店

回漕部

電話六二番 電略(タカ)

新潟縣新井町

△木炭問屋

田中商店

電話長六六電略(タ)

新潟縣新井町

○木炭移出

和田英一

電略(ワタ)

新潟縣新井町

△薪炭移出

早津倉治郎

電話百二十五番

新潟縣新井町

△木炭移出

山岸喜次郎

電話長一二六番

新潟縣新井町

△薪炭問屋

入村清一郎

電略(セイ)又ハ(イ)

越後直江津町

△木炭問屋

伊藤商店

電略(イ)又ハ(六)

米穀
木炭
肥料
北陸線西頸城郡名立町
岡崎 泰治
振替東京三三七一三

新潟縣西頸城郡木浦村
木炭生産
移出問屋
佐藤 徳八
積出驛北陸線能生驛

木炭
問屋
新潟縣名立町
塚田利三郎
振替東京三三六八五

北陸線糸魚川驛前
吉田 商店
電話二二番電略(ヨシ)

北陸線能生驛前
木炭
移出
山崎佐太郎
電話十九番

北陸線糸魚川驛前
木炭
移出
林清藏 商店
電略(ハヤシ)

北陸線糸魚川驛前
木炭
輸出
猪又勝次郎
電略(カツ)又ハ(カ)

新潟縣南蒲原郡森町荒澤
薪炭移出
渡邊 龜藏
振替長野二二三〇番

越後柏崎郵便局前
茶櫻井 商店
木炭部
電話柏崎六十一番

新潟縣長岡市山本町
薪炭商
西脇 傳治
電話三八九番

新潟縣刈羽郡北條村
雜貨部
信越線越後廣田驛前
明治運送甲種取引店
賴下 商店
運送部
廣田運送店
瀨下平吉

新潟縣南蒲原郡三條町
薪炭問屋
渡邊 良吉
渡勤商店
新潟縣三條町旭館前
下田木炭
佐渡木炭
高橋 玉次

新潟縣三條町門前町

薪炭問屋 齋藤正雄

新潟縣三條町田町

薪炭問屋 大泉吉松

新潟縣南蒲原郡加茂町

木炭輸出問屋 瀧澤増平

電信略號(タキ)

新潟縣南蒲原郡加茂町

木炭問屋 製炭移出 小柳久三郎

電略(ヤマキウ)

長岡市間ノ道町

薪炭問屋 大平林松

電略(ヲ)又ハ(オヒラ)

二三三

長岡市城内町二丁目

薪炭問屋 竹田竹三郎

電略(タケ)又ハ(タ)

長岡市上田町

薪炭問屋 新保金平

電話八二五番

長岡市長町二丁目

薪炭問屋 内藤倉吉

電話一一三二番

新潟市古町通十番地

薪炭問屋 小山角藏

電話一〇三六番

新潟市船場町一丁目

薪炭問屋 江口商店

北海道木炭 電話一三五五番 電略(カクエ)又(エ)

新潟市芳町六ノ橋際

薪炭問屋 小木音藏

回漕問屋 電話一七九三番

新潟市大川前通四之町

薪炭問屋 谷川回漕部

店主 谷川藤作 電話六〇八番

新潟市西厩島町

薪炭問屋 佐々木佐次郎

電話八十六番

新潟市下大川前通五の町

回漕業 薪炭取扱 里村利一郎

電話一七二八番

佐渡各地行帆船發動機船取扱所

二三三

ほ中央市場へも稀れに供給さるゝあり近縣埼玉方面にも時々佐渡の製品に接するあり

山 梨 縣

山梨縣の主要生産地は上野原町を中心とする北都留郡木炭同業組合の地區内にして堅炭優良品を産し櫛正味四貫五百目雜木は四貫とし壹包裝なり、又消費地の主なるは甲府市及其近郊にして年消費量は約三百五十萬貫を示すの傾向なり、本誌は生産移出地としては中央線沿線の主要驛即ち北都留郡木炭同業組合の地區に止め、又消費地は甲府市を案内するにとゞむべし、因みに山梨縣一ヶ年の木炭生産額は甲府市の消費量と伯仲し一年三百五十萬貫内外を算す、而して大部分白炭なれども縣は近時大正新式に依る黒炭の製出を奨勵しつゝあり、左に主要地を紹介すべし

上野原町 神奈川縣産洋久井物も此驛へ集中し一ヶ年移出量百三十五萬貫を示す此地集散木炭の産地は櫛原、小管、西原方面のもの多く又南都留郡秋山方面の産も集中す、神奈川縣津久井郡佐野川村小山佐傳治、澤井村の弦切久太郎の兩店に於て取扱はる、上野原町に店基を固め北都留産を取扱はるゝ移出商には石井爲次郎、島田藤次郎、細田文平、八木辰治、北村徳藏、島田新重、金子春吉の各店あり

四方津驛

南都留郡秋山村の産大部分を占め櫛五貫、雜四貫五百目なり、郡内産は組合定款に則り上野原に同じ、此驛よりの移出量一年十五萬貫と稱せられ、志村龜吉、近江屋商店、尙ほ嚴村川井の荻原熊太郎、島田國太郎の兩店等を數ふ

猿橋驛

黒炭をも産し正五貫目角依に仕立てつゝあり白炭黒炭合せて年移出額四十五萬貫を示し、驛前の高山商店、倉川商店、高田梅之助、石井平太郎の諸店移出を營み又七保村に至りて黒部勇太郎、相馬善代、鈴木清次郎、古西登與平の諸店あり、産地は小金澤方面の官有林にして炭材林の蓄積に富む

大月驛

一ヶ年移出量十二萬貫壹丸依にして眞木方面よりは黒炭をも産し雜丸の如きは優良品を以て間の南都留郡道忠、吉田、船津の各部落よりの産も此驛より移出す、移出商には小林孫四郎小宮重敏の兩店あり、道志産移出商に道志物産商會あり、吉田口移出商には山本三郎兵衛氏あり、又隣驛初狩には手塚綱政、小林新兵衛、内田富作の諸店あれども此驛移出量は年次減退し眞木産黒炭年額七八千貫内外に過ぎざらんか

笹子驛

中央線の開通せざりし以前は郡中の主要なる集散地なりしも、交通開けし以來他驛へ散ずる一面には私有林の過伐と縣有林の制限拂下とに依り移出額を減じ現今にては一年五萬貫内外な

るべく、移出商に平井兼三郎、天野留平の兩舖あり

甲府市 人口六萬の都市木炭の消費量一ケ年三百五十萬貫に達し縣内産は巨摩の各郡と東西山梨の産約四割を占め六割は縣外長野、新潟、秋田、岩手の各地産と九州、山陰、支那木炭の移入あり、薪炭問屋には加藤庄太郎、芦澤忠治、伊奈登、山田龍平、小林淺次郎、中村瀧次郎、矢崎富治保坂三代吉の諸店を數ふ

長野縣

長野縣一ケ年の木炭産額は一千三百萬貫内外にして大體より言はゞ北信地方は主として白炭を産し南信地方は多くは黒炭を産出し木曾地方に至れば堅木薪の産出あり同縣は各地域別に木炭同業組合の組織あり之を聯合すべく長野縣木炭同業組合聯合會の設置あり、縣は同會に補助金を交附して改良指導に當らしめ、漸次改良に向ひつゝ機運に到着し居れり、今中央市場及び東京近縣の消費地より觀たる長野縣の木炭を概評するときは、東京市場向は南佐久郡と高水木炭同業組合地區内産の一部を主とし其他は概ね縣内の需用と中間消費地に供給せらるゝ大俵なり、今之より中央市場及近縣と取引關係ある主要なる移出地及び他縣産の供給を仰ぎつゝある主なる消費地に就き略述すべし

北都留郡木炭同業組合が検査を嚴施し檜堅正味四貫五
百目雜堅正味四貫目の二種
こそせる優秀品なり

| | | |
|----|-------|-------------|
| 山梨 | 石井爲次郎 | 振替東京三四二九九 |
| 縣上 | 細田文平 | 電話(ホ)又ハ(ホソ) |
| 野原 | 島田藤次郎 | 電話三十四番 |
| 町木 | 八木辰治 | 電話四十四番 |
| 炭移 | 北村徳造 | 電話三十三番 |

木炭生産移出

中央線猿橋驛前

宮田梅之助
宮田運送店

薪炭移出商

中央線猿橋驛前

倉川商店
電話(クラ)又ハ(ク)

薪炭問屋

甲府市三日町二丁目

加藤庄太郎
電話(カ)又ハ(カト)

木炭問屋

甲府市百石町

商標 念 芦澤忠治商店

電話 八百十一番

電信略號 (アシ)

南佐久郡

南佐久郡は木炭同業組合の組織ありて製品は正味四貫五百目に統一し賞俵堅炭多し、同業組合は近時需用地の情勢に鑑み黒炭を奨励せんとする傾向ありて、郡組合は視察員を東北地方に特派し探究せしむる所あるが聽て黒炭角俵として移出さるゝ數量多きを致すべきか、現に羽黒下驛に本部の設けある與志本合資會社には吾妻郡妻戀より黒炭を産出せるが未だ品質の佳ならざるものあるより講師を聘する等努めて改良に腐心せらるゝものあり、南佐久郡は一年三百萬貫に垂んとするの多額を示せるが今後黒炭の製出を奨励するあらば收炭率の増加と共に産額累進せらるべく、川上村方面の山梨縣背後の山麓は雜木林に富み居れりとあれば主力は漸次同方面に注がれて好望視せらるゝに至らん、之れより佐久鐵道沿線主要移出地の概況を述べし

佐久鐵道羽黒下驛 驛前に與志本合資會社本部あり、大日向村に三石市松、菊地啓一郎、淺川貞雄の諸店あり、産地は大日向村の林地と群馬縣多野郡に境せる奥地とより産し年額四十五萬貫は此驛より移出すべし、而して大日向村々有林を資材とせるもの品質良好なり

佐久穂積驛 畑八村々有林三千町歩を輪伐に依つてせるもの大部分を占め東馬流附近よりの産

も此の驛に集中す、年移出額二十二萬貫内外なり、移出商には畑八村（驛を巨る十五丁）に小宮山良三、畑今朝藏の兩店あり、東馬流村に淺沼龜四郎商店ありて、東京山手線東武線方面へ供給す

小海驛 驛前に工藤金松、依田熊吉、工藤貞吉、淺沼房吉、淺沼龜四郎、南佐林産物株式會社の諸店ありて移出を司る、郡中第一位の移出地にして一年百萬貫を算すべし、生産地は川上、柏木方面にして前途無盡藏の状況を呈し、製品は組合定款に依る正味四貫五百目堅炭にして萱包装兩口と折込とあり

信越本線

田中驛 北佐久郡に屬し製品は南佐久郡と略ほ同種なるも包装は萱の折込俵多し、又薪の産出あり楢雜一尺四寸束廻り三尺六寸の大束一年八百噸を産す、木炭は十八萬貫内外なるべし、雜堅は品質可なれども楢は大焚にして粗悪なるが故に諏訪方面の工業用に仕向く、荷主には小山佐兵衛商店あり沓掛驛の萩原達次商店も此驛移出薪炭を取扱はる

輕井澤驛 沓掛驛と共に郡内産は極めて少なく殆んど全部が群馬縣吾妻郡の産にして草津輕鐵に依り此驛に搬出し、輕井澤の青木商店、沓掛驛の土屋好藏、小井土市太郎の諸店に於て移出取扱

をなし、東京府下武州方面へ供給す、沓掛驛よりは八萬貫、輕井澤驛よりは二十萬貫内外なるべきか與志本合資會社、沓掛驛の土屋好藏商店等此驛より移出さる

上田市 消費地にして近時山陰、九州等稀れに北海道産の移入あり、土地産としては丸子町奥地の林源よりし消費に充つる外東京、埼玉、名古屋方面へ供給す、消費量一ヶ年概算百三十萬貫にして二十萬貫の移入を仰ぐと共に亦移出も之れと伯仲せり

長野市 一ヶ年の消費量百七十萬貫を算す、人口六萬の都市縣治の中心地なり、縣内各地の産を仰ぐ一面には山陰、支那、九州、北海道産等の移入を見る、薪炭問屋としては、石堂町の中村庄之助、西長野町の山口源藏、西後町の沼田喜三郎商店等を主とし、最盛期には稀れに縣内産の移出をも營む

須坂町 上高井郡の市邑にして河東線の沿線地たり高水木炭同業組合の地區内産の移出をなす、年額四十萬貫と稱せられ長田守三商店あり、最近小布施より神田麻治氏此地に店舗を移さる

豊野驛 下水内部にして高水組合の地區なり産地は夜間瀬、平穂等を主とし、中野町勝山並藏商店の出張所あり、其他此の驛へ出荷する荷主は中野町にして勝山本店、刈和長助、鎮目濱吉、小野仙藏の各店あり、尙ほ往郷村産業組合の産も此驛より供給されて、東京、埼玉、千葉、茨城の各地

信州南佐久郡産移出

長野縣南佐久郡畑八村六七二番地

全

木炭製造
輸出問屋

小宮山良三商店

電信略號(コ)又ハ(コミ)

薪炭問屋

長野縣南佐久郡畑八村

今朝藏商店

電略(ケサ)

木炭移出商

長野縣南佐久郡小海驛前

工藤貞吉商店

電略(ク)又ハ(テイ)

薪炭輸出問屋

信州佐久鐵道小海驛前

三

花房屋號

依田熊吉商店

電信略號(クマ)

木炭生産輸出

信州佐久鐵道小海驛前

南佐會社

株林產物
式十六番
電話特長
電信略號(ナンリ)

島屋號

信州南佐久郡東馬流

浅沼龜四郎

問屋
電略(シマヤ)

木炭輸出問屋

長野縣南佐久郡大日向村

商標 **五菊池** 商店

振替長野 一二二番
電信略號 (キク)

木材薪炭問屋

信越線田中驛前

命 小山佐兵衛商店
電話長十八番 電略(サ)

米穀薪炭問屋

信越線杵野驛前

マ 土屋好藏商店
電略(マルマ)

木炭問屋

長野市石堂町

吉 中村庄之助

電話一〇七〇番
振替長野八九五番

薪炭問屋

信州上田市相生町

釜 海川甚平

米穀、醬油、味噌
電話二五八番

木炭輸出商

信州飯山町

下 富倉屋商店

店主 深堀清太郎
電話百十五番
電信略號(ト)

木炭 荒物 雜貨 問屋

長野布石堂町

翁 峰村安兵衛
電話長六七五番

薪炭問屋

信越線柏原驛前

可 中村利兵衛
振替長野四一九番

木炭移出商

信州飯山町

高 高橋寅吉商店

電略(タカ)

薪炭輸出商

信越線柏原驛前

竹 竹内政太郎商店

電略(タケ)又ハ(タ)

信州改良製品

信州下高井郡中野町

分 木炭問屋 勝山商店

店主 勝山並藏

電話百十六番 電略(カツ)

出張所 信越線豊野驛前

へ移出す

飯山町 下水内部飯山町は大正十年八月飯山鐵道の開通以來交通運輸の便開け薪炭の移出、其の量を増し一年八十萬噸を算す、移出商には富倉屋商店、田中養助、高橋寅吉の諸店を數ふ、高水組合の地區にして製品は定款所定に則り検査を嚴施さる

柏原驛 同地は上水内郡古間村にして長野營林署の官行製炭の移出地たり、一ケ年五十萬貫と稱せられ、民業に成るものは僅かに三十萬貫内外を算する狀なり其外薪の生産あり束廻り三尺にして薪尺は一尺四寸物にて一年三百車内外を製出す、移出商には中村利兵衛、竹澤政太郎の兩店あり、木炭は賣大俵多し

中央本線

茅野驛 長野縣諏訪郡上諏訪を巨る二里の手前、四近は養蠶旺んなるを以て蠶兒飼育に要する木炭の量、此驛へ吸引せらるゝもの年額四十五萬貫と稱せられ、郡内産の外木曾木炭の供給を受け尚ほ山陰、九州産の移入を受く薪炭問屋には上條直助、五味義太、矢崎鐵之助の諸店あり

上諏訪驛 人口三萬消費地なり木曾上松方面の産と岐阜縣の産を仰き尚ほ北陸新潟の各地より

移入を受け白炭六割黒炭四割の割合にて年消費量七十五萬貫を算す、薪炭問屋には藤森晋平、濱宗作の兩店を主とす

下諏訪驛 消費地にして此驛へ吸引せらるゝ木炭の量年額二十萬貫、薪八百噸にして郡内産は僅かに十五萬内外に過ぎずして木曾、北信地方、北陸、九州、山陰、北海道の供給を受く薪炭業者には信濃林産株式會社の直營販賣をなすあり入龜木炭部あり、山口金一商店あり、主として養鷲製糸方面に消化さる

岡谷驛 製絲工場所在地にして男女工常に六、七萬人も此地に在住する程にて機械動力に改まらざる以前は木炭の消費量多額に上りたり然れども今日に於ても人口稠密に伴ふ家庭用としても尠からず、此地消費量一ヶ年木炭百六十萬貫、薪二千五百噸と稱せらる、薪炭問屋には、酒井敬英商店に亞ぐに松森、井澤、山本の諸店あり、木曾、南北安曇の縣内産の外に九州、山陰、北海道の移入あり

松本市 人口五萬五千の消費地なり工業亦旺んにして南北安曇、西筑摩等の縣内産の外山陰、岐阜、富山、九州より補給を仰ぐ一ヶ年二百五十萬貫の消化量を示す薪炭問屋には鳥羽源治商店あり同店は北安曇郡に製炭所ありて移出をも營む、亞ぐに倉又長九郎商店なりとす

信濃大町 北安曇郡大町は同郡製品の集中移出地にして、北坂、美麻の兩村を主産地とせり北アルプス山麓より新潟縣境に接せる林地は無盡藏に豊富の狀を呈せり、製品は北安曇郡木炭同業組合の定款に則り正味五貫と八貫とに別ち年産出額白炭八十萬貫、黒炭二十萬貫を示し、東京、埼玉茨城、群馬、千葉の各地へ供給す、移出商には倉持重吉、鷓飼鳥次郎の兩店を主に數舗あり

中央線奈良井驛 木曾木炭同業組合の創立ありて以來製品の面目全く一變せる觀あり白炭十五萬貫、黒炭八萬貫内外の年産出額あり白炭は吠入と萱俵とにて正味八貫物多し黒炭は正味五貫と四貫とに改めつゝあり、同地楢川村に三千五百町歩の村有林ありて輪伐に依り、尙ほ無限なる面積を包擁せる御料林に依り資源の蓄積豊富なり、木炭の外に薪を産し年八百噸を下らざるべし、移出商には費川直助、小林幸太郎、唐澤滿次郎、長坂昌作、島田政吉の諸店あり

藪原驛 奈川村の奥地御料林を資源林とし白炭年産額十二萬貫を數ふ、八割まで縣内主として松本市へ供給し正味八貫大俵なり稀れに東京、埼玉方面へも移出す、移出商には篠原梅太郎商店を筆頭に數舗あり

木曾福島驛 白炭黒炭を産し一年八萬貫内外の量にして又薪をも産出し一年九百噸乃至千噸の産額あり、多くは御料林を資材に供し正味八貫と六貫とに別ち黒炭は正味五貫に依る、移出商には

木炭問屋製炭

信州上諏訪町

引藤森音平

電話長二一番
電略(ラシ)

木炭問屋

信州上諏訪驛前

分濱宗作商店

電話三六八番

木炭薪製造販賣

中央線下諏訪驛前

標商 林 信濃林産株式會社

積出驛 中央線木曾奈良井驛
電話長七番 電略(リン)

薪炭問屋

標商

井 酒井敬英商店

本店 長野縣岡谷驛前

電話六六九番

支店 長野縣高遠町

電話十二番

薪炭問屋製炭移出
松本市土井尻町
鳥羽源次商店
電話七〇六番

木炭移出商
長野縣信濃大町
倉科重吉商店
電信略號〇三

木炭製造移出
中央線奈良井驛前
小林幸太郎商店
電信略號〇五

薪炭移出
營業所 信州木會上松驛前
Ⓚ 長谷川季太郎
名古屋市東區針屋町
電話上松十一番

材木薪炭商

信州木會奈良井驛前

Ⓜ 贅川直助商店
電話(〇卜)

支店 松本市今町

岐阜縣移出商

木材薪炭 中央線中津驛前
土屋久藏商店
電話百五十二番

炭問屋 岐阜縣惠那郡岩村町
川手正一商店
特電話三十六番

木炭移出 岐阜縣惠那郡岩村町
惠那商事株式會社
電話四十四番

薪炭問屋 岐阜市北長良町
毛利岩次郎商店
電話九百十二番

木炭問屋

分 岐阜縣揖斐町
細野勝三郎
電話二十三番

倉 薪炭輸出
岐阜縣揖斐郡北方村
林富彌商店
電話(ハヤシ)

薪炭問屋

Ⓚ 岐阜市住ノ江町一丁目
村瀬菊治商店
電話二二五〇番

八幡又菱荷札一手販賣
岐阜縣郡上郡八幡町
八幡産業株式會社

諸國木炭賣買問屋

岐阜縣養老郡澤田

登錄標 今 養老社 本店

振替口座 東京三〇九二〇番
大坂五〇四八六番
電話三三三番
大垣市東船町養老社出張所

小林金之丞、原六藏、木曾林業株式會社等あり

上松驛

一ヶ年の産出量木炭四十六萬貫、薪八千噸を下らず、薪は松材多く多治見、土岐津等の陶器工場に多く供給す、木炭は白炭多く正味八貫にて黒炭は五貫なり、木曾の山林に向ひ森林鐵道を利用し無限の蓄積あり、移出商には長谷川季太郎出張所、横山清一郎、塚本祐治の諸店あり

三留野驛

九州半白に類する半白燒の製品多く正味八貫造りなり黒炭は賣角俵正味五貫とせり一ヶ年の移出量木炭二十五萬貫薪八百噸を算す、伊藤商店、森吉彌の諸店移出を營む

岐 阜 縣

一ヶ年木炭産出額一千百萬貫、縣は縣下木炭の規格を統一し其改善を促進せんが爲に縣營検査を行ふこととなれり本誌に略述する一般狀況としては在來品を基として紹介することとし尙ほ主要生産地と消費地のみに止めたり

中央線坂下驛

此驛集散の産地は恵那郡川上村及び付知町方面の産なるが交通不便の爲林源の開発不充分にして今は一年十五萬貫内外なり、黒炭賣角正味五貫に改良せるもの並に八貫呎入半白炭なり、移出商には山田松之助、田口仙吉の兩舗あり

中津川驛

坂下驛移出木炭と同種にして年産出額五萬貫土屋久藏商店移出を司る

大井驛

産地は長野縣下伊那郡組合村方面にして年産出額木炭七十萬貫薪五千噸を數ふ移出商には驛前に川井金三郎商店あり、岩村電鐵の終點岩村町に恵那商事株式會社、川手正一、勝宗一の諸店あり

岐阜市

人口六萬を算する消費都市にして薪炭問屋には南谷信一郎、大橋代助、毛利永吉、毛利岩次郎、村瀬菊治、村瀬喜八の諸店あり、縣内産としては養老、揖斐の兩郡産の移入あり縣外よりは山陰、九州を始めとし近きは北陸物の移入あり、又北海道産の供給をも見る、一ヶ年の消費量三百萬貫と稱せらる

大垣市

カーバイト工場の大盛を極めし當時は一ヶ年六百萬貫の消費ありと稱せられ工業用木炭の迎へらるゝことは全國でも有數なりとありしが現今にありては工業向を減じ大半は同市及近郊家庭用となりたれども其消費數量にありては岐阜市を凌駕するものあり、縣内産は揖斐、不破の兩郡よりし縣外は山陰線物を主とし次ぐに九州、北陸、北海道の順序なるが如し、薪炭問屋には松岡幸次郎、森島松之助、養老社出張所等あり

養老鐵道揖斐驛

揖斐郡産木炭の集中さるゝ移出驛にして黒炭年額五十萬貫、文庫炭と稱する

半白炭六百五十萬貫の移出ありて黒炭は正味五貫壹角俵とし白炭は壹八貫大俵として供給す、産地は郡一體なるも春日村と揖斐川の上流を主産地とせり、移出商には揖斐町に細野勝三郎、北方村に林富彌、林文彌、林安太郎、河瀬光太郎の諸店あり

郡上郡八幡町 産地は八幡町を距る五里八里の地點長良川の上流と吉田川流域とにして石原官有林よりも多量の製出あり、一ヶ年産出額三百五十萬貫にして黒炭は約二割にして八割までは白炭なり亂貫多く目下量目の統一に腐心せらるゝの狀なり、移出商には丸山定次郎、餌取庄之助、井上岩吉、齋藤英吉、宮川與兵衛、村瀬茂三郎、前田伊三郎、野々田清一郎、山口藩、福島多平、長谷末藏の諸店あり又奥明方村に畑佐榮次郎、彌富村に加藤山松の各店武儀郡美濃町に鈴木午次、丸五物産株式會社等あり、仕向先は岐阜、名古屋、大垣等を主となす

神奈川縣

神奈川縣の産地は津久井郡を主とし次ぐに足柄上下兩郡山北方面にして尙ほ愛甲郡よりも産出あり林地十二萬八千九百十三町歩産額約二百萬貫にして、津久井郡産は多くは中央線を経由することを以て概要を山梨縣に移し茲には山北と秦野方面を略記するに止むべし

山北驛 此の驛へ集散する木炭は年額百二十萬貫と稱せられ足柄上郡三保、神繩、共和の各部落民林及び官有林を資材とし黒炭は壹角俵正味四貫とし堅炭は正味三貫なり、移出商には武文次郎、關鐵次郎、石川光太郎の各店重きをなす

秦野町方面 受甲郡媒ヶ谷村丹澤山御料材及び足柄上郡立倉山御料材を資材とせるものにして年額三十萬貫内外なり、黒炭多く正味五貫角造りなり小田原、横須賀、厚木、横濱方面へ仕向く

消費市場 平塚、大磯、二の宮、茅ヶ崎、藤澤、程ヶ谷、小田原、鎌倉、田浦、横須賀の各市場並に鶴見、川崎方面へは従來供給の産地の外に近時山陰及び九州物の供給あり、同方面の消費地は稿を改めて別項に紹介することゝすべし

静岡縣

静岡縣は木炭業の進歩せる地なるが中頃にて於て稍々中たるみせし感なきにあらざりしも更に最近活躍の歩を進めつゝありて、後進の組合視察員が杖を曳くに先づ榛原郡木炭同業組合を遠州金谷町に訪問するが如く、又最近賀茂郡木炭同業組合が従來の白炭は製炭探算上不利として黒炭角俵正味四貫に仕立て移出するが如き、其白に於ても小俵二貫五百目は全然之を廢して正味三貫目となせしも

木炭移出商

東海山北驛前

松 關鐵次郎商店

電話略(テツ)

木炭米雜穀

東海山北驛前

武 武文次郎商店

振替東京二〇九八
電信略號(〇タケ)

薪炭問屋 高世商店
田州小田原町綠町三三五
電話三十番

米穀木炭商
力 今井兼吉
東海山北驛前

薪炭商 相州小田原町綠町二丁目
梅津仲次郎商店

相 相模薪炭株式會社
神奈川縣愛甲郡厚木町
電話厚木十番

木炭商 相州平塚町新宿
北村與吉商店
電話(キタ)又ハ(キ)

相 相模林産株式會社
東海山北驛前
振替東京 六〇六九五番
電話(サ)又ハ(サリン)

木炭移入問屋

神奈川縣保土ヶ谷町帷子

久 久保田權太郎
電話長者 二一九一三番
振替東京三二一五四一番

更に之を正味四貫目とし會津方面の優良堅炭に對比し中央市場に於ける其雌雄を批判に問ひ大いに販路の擴張に努めんとするが如き遠江薪炭同業組合が其主産物たる薪の規格を統一し金輪結束を以て市場に聲價を發揚せんと努むるが如き又東駿薪炭同業組合が愛鷹山の樫の大木を黒炭小割角俵に調製し一面には生産者の共同販賣を奨励し改良小組の設置と共に生産者の利益擁護に勵みつゝあるが如き、劃策怠らざるものあるは先進たる名に背かざる施設と云ふべく漸次改良の歩を進むることを期して待つべきものあり同縣の森林面積は五十七萬町歩にして全土の四割八分に該當し天城、富士山麓等は最も資材に富めりと云ふべし一年千五百萬貫内外の製品のうち東京市場と最も關係深きは賀茂郡にして、亞ぐに田方郡なるが、而して榛原郡産の如きは横須賀市を主として供給し志太郡の如き稀れに中央市場へ移出するものあれども、縣内及び東海道沿線消費地に供給するもの多し、之より東海道を東駿組合の地區駿河驛より漸次濱松に、最後に賀茂郡の概況に及ぶべし

駿 東 郡

駿河驛 生産地は神奈川縣足柄上郡世附山の私有林と小山町を巨る數里の官有林より産するものにて比較的割物多く正味四貫目又は四貫五百目の黒炭多く一ヶ年八十萬貫内外を移出す移出商に

は神成昇作、高橋角一、林幸太郎、池谷鶴藏の諸店あり

御殿場驛 往昔は薪炭の移出多量なりしが近時消費地と化し、移出數量は僅かに木炭に於て二十萬貫薪二十萬束に過ぎざるべく、今は反つて身延線、大仁等の縣内産と九州山陰等より求むる傾向となれり、移出を兼ねる薪炭問屋に中島留五郎、勝亦貞枝の兩店あり

三島町 人口一萬六千の消費地にして一ヶ年消費量五十萬貫、田方、賀茂、兩郡産主として供給せらる、薪炭問屋に佐藤木炭部、小西利一郎、上杉長太郎、大路吉一出張所、出口薪炭店等あり

沼津市 一ヶ年消費量百三十萬貫を下らず、縣内田方、賀茂兩郡産が主として供給せられ、又此地問屋によりて兩郡産の移出をなす場合ありしが、現今では他地産の移入取扱を見るの狀なり、薪炭問屋には風間喜作、新井寅吉、濱野清藏、新井勇次郎の諸店を主とし牛臥に秋山富次郎商店あり、尙此地に東駿薪炭同業組合の事務所あり、愛鷹山移出木炭を丸共製炭改良組合の組長小澤忠作氏代表的に注文を仰ぎ同業組合事務所内に小組合事務所あり

富士郡

身延線大宮町 富士驛より身延鐵道にて僅かに三十分にして到る、此地に集散する木炭は黒炭

正四貫五百目物多く年移出額八萬貫と稱せらる、生産地は富士の山麓にして大木にて雜多し、仕向先は横濱、横須賀方面なるが、人口約二萬に近き同町なれば土地の消費量もあり郡内への供給もありて縣外移出は少量なり、木炭販賣業者に佐野義一、遠藤金八、石川角太郎、長田庄太郎、今村英治、北川萬吉、甲田薫、磯部藤左衛門の諸店あり

庵原郡

岩淵驛 此の地は身延線の開通以前は甲州なる富士川沿岸より移出する木炭は悉く富士川を下りて此地に集中し年額百四十萬貫の巨額に達したりしが身延線の開通後は奥地の産悉く鐵道に依り輸出せらるゝに至り、岩淵に集まるものは八萬貫内外に減ぜり、移出商には花田、山崎の兩商店を主とす

老舗花田保作氏の業態

静岡縣庵原郡岩淵町に於ける木炭移出商として信認あり老舗たる花田保作氏は祖先の着眼せざりし木炭の業が前途好望なるに見て明治三十四年に至り木炭の製造移出を開始し堅實なる營業方針

を迎り來りたれば業務は着々功を遂げ、山梨縣南巨摩郡内に二ヶ所の製炭所を設け、又西八代郡にも手を延ばし手山移出を開始し來り、身延線の鐵路より白炭黒炭年々六萬俵を下らざる移出をなし、資力の充實と相待つて營業の上に活動し、縣外移出は横濱を主とし稀に東京へも供給す

静岡市 縣治の中樞地にして消費地たり唯安倍郡産木炭が此地の木炭問屋に依つて移出さるゝものあれども、その安倍郡は年産額百七十萬貫内外にして六割までは静岡市の消化に供せらるゝの狀なれば移出極めて少なく、寧ろ市内家庭用の外に近郊製茶用並に養蠶用に供せらるゝ數量多ければ廣く他方面より供給を受くるの消費都市たり、今や一ヶ年消費量五百萬貫に達するの勢にして、山陰、山陽、九州、北海道、支那木炭等又稀れに東北産の移人もあり、薪炭問屋としては石川留次郎、長倉元一郎、望月留藏の三店は稀れに移出をも營み何れも商勢旺んにして亞ぐに杉本萬吉、石野幸次郎、岡村惣一郎、杉本儀右衛門、望月善光、近藤金造、安本三之、小林重太郎の諸店を數ふ

清水港 静岡市より電車にて約四十分、伊豆賀茂郡産の集散地として聞ゆ、消費地にして又移出地なり、杉山寅吉商店主として移出の衝に當る、外に濱田、神部の兩舗あり

榛原郡

金谷驛 此驛なり移出する數量は一年百萬貫を示す、静岡縣榛原郡木炭同業組合は明治四十年の創立にかゝり改良製法を普及し其築窯製炭法は大正元年に至りて世に知らるゝに至りしと共に名づけて大正式築窯法製炭法とせり、榛原郡木炭同業組合地區内の産出木炭は金谷驛と島田驛とより移出し正味四貫角俵にして年移出額二百萬貫を超ゆ、主産地は大井川の沿岸各村にして舟筏の便にて航運されしものが一と度五和村に水揚せられ移出驛へ集中す、供給先は横須賀市を主とし東海道沿道消費地より偶々東京へも供給せられつゝあり同郡にては生産者の改良心を部分的に喚發せしむる爲に各村に木炭改良小組を組織し郡組合は之を統一し其生産検査に成るものを更に移出驛に於て移出検査をなし、等級別毎俵検査に依る、故に品等格差の如き整然とし、商取引の上に便益するこゝと多大にして同時に製品に對する消費地の信用高ければ組合が施しつゝある改善方法等は他に範を示しつゝあり薪炭林の蓄積に於ては大井川奥の天然林は恰も竹林の如く密生し居れば前途の生産量にありても減少の憂ひなかるべし、移出商は別項諸店を参照されし

志太郡

島田驛 金谷に亞ぐの移出地にして年移出額八十萬貫を下らざるべく、榛原郡に隣し同業組合の

施設又榛原郡組合と近似せる志太郡木炭同業組合あり、生産地は大井川の上流東岸の林地なり、島田町移出商に八木安平、大池重太郎、鈴木廣吉、貝原木炭店の數舗あり

濱松市 静岡市に亞ぐの消費地にして人口四萬五千木炭一ヶ年の消費量二百五十萬貫を示す、周智、磐田の兩郡産と愛知縣産の供給を受く、而して遠江薪炭同業組合は磐田、引佐、濱名、小笠の四郡と濱松市とを地區とし薪炭の移出額亦多し、此地薪炭問屋には佐久間源之助、堤繁三郎、桑原養太郎、山下松一郎、荒澤仙太郎、向井皆一の諸店あり

田 方 郡

静岡縣田方郡の移出地は東海道三島驛より分岐せる駿豆鐵道の終點大仁驛に集散するものを主とし次に海岸土肥村の産にして黒炭は正味四貫角俵にして白炭は正味三貫目に統一せられ田方郡木炭同業組合は大仁、伊東、土肥の三ヶ所に検査所を置き検査を厳施さる、其地區内全體の産出木炭は年額二百二十萬貫内外を往來し茲數年は略ほ現状を維持せるの情勢なり、今主要移出地大仁、伊東、土肥の概況を述べし

大仁驛 此驛より移出する木炭は郡全産額の五割五分に達し天城山より製出するものと私有林

の少量とを加へ此所に集中す、主として黒炭にして白炭は中狩野、北狩野の兩村より産出するに過ぎずして少量なり、移出商には田中村に佐藤彌太郎商店ありて營業の規模大なり、次に菊地新平、長倉兵助、田京驛前に諸伏和作商店あり

伊東港 海濱に面せる天城山麓の製品にして熱海町へ仕向くる外、神奈川縣下へ供給す年移出三十萬貫内外なり、移出商には大沼廣吉、井原久藏の兩店あり

土肥港 白炭正三貫品質優良なるものを産すれど近時黒炭製出の有利に鑑み白炭を棄て、黒炭に遷れる傾向にして、自然黒炭六割白炭四割の程度に推移し黒炭は正味四貫の角俵造りを以てす、年移出額二十萬貫内外ならんか、登木口商店、勝呂長吉商店移出を營まる

賀 茂 郡

静岡縣賀茂郡は往昔優秀なる白炭を産出し殆んど其産額の八割までは東京市場へ供給し來ると共に中間消費地需要増加と共に寧ろ他地へ奪はるゝ傾向なりしが近時九州及び支那木炭の關東市場襲來と共に中間消費地もそれ等の爲に糞食され、東京市場また支那木炭の爲に伊豆木炭も自然威壓を被るに至りたれば、賀茂郡にありては従來の白炭を黒炭に改むるの得策なるを悟り、現今にありては

全産額の七割までは黒炭と變じ正味四貫にして若木を資材とせる丸物を多量に産出する機運となり販路も亦自然に延びんとするの傾向にてあれば同業組合は機を逸せず旺んに獎勵に努めつゝありて尙製の技術にありても東北本場に比し遜色なきまでに熟達するに至る、燒製法と選別に於て、いま少しく注意を用ゆるに至らば、凡てに於て申分なき製品となるべし、尙白炭にありては下出口は從來正二貫五百目の小俵なりしが斯くては販路が縮少せらるゝ傾向なきにあらず東京市場へ供給さるゝ東北の製品は概ね正味四貫なれば伊豆も亦四貫に改めたしとの東京市場よりの希望は、唯漸く正味三貫とし小俵を廢せるまでにあれども、來る十一月の交よりは決然之を正味四貫とし市場の希望に副はんとするの傾向に到達せるが如し、而して取引方法は白炭全盛の當時は紀州と共に圓替口錢附なりしが黒炭に限り口錢附舊慣を廢して俵建相場に依る取引となり、白炭も正味四貫に改むると共に口錢を廢止せんとする産地の希望なるが時勢の趨く所は自然大勢順應の形となり口錢制度委託取引は廢止せらるべき運命となるべく思惟さる賀茂郡一ヶ年産額は四百萬貫内外に達すべく縣下第一位の量を示し又供給地も主として東京市場なるが尙ほ横濱、小田原、横須賀方面へも仕向けらる本誌は之より郡内主要地に就き河津口より紹介することゝすべし

河津口 上河津方面天城山の御料林と近在民有林を資材とし、民有林の樹齡は十二年内外御料林

は四五十年なり、年額移出黒炭角俵四貫物二十八萬貫、白炭正三貫物十萬貫程度を往來せり移出商には河津物産合資會社並に東賀製材製炭株式會社の外大鹽種吉、相馬宇吉の諸店あり

河津物産合資會社の現況

静岡県賀茂郡上河津村河津物産合資會社は大正十年の創立にして、主として木炭の製造及び販賣を營み傍ら製材事業をもなし店基の堅實なるものあり、鈴木市太郎、片岡藤太郎、板垣一、鈴木惣吉、稻本徳太郎の諸氏中堅となり業務の向上に努む

東賀製材製炭株式會社の狀況

静岡県上河津村なる東賀製材製炭株式會社は木材木炭の製造及び移出更に建築請負、山林の賣買等を營業課目とし大正十年の創設にかゝる、取締役社長に櫻井丈助、取締役板垣福次、稻葉吉藏、秋山島吉、櫻井又藏、鹽田源助、監査役に山田高次郎、稻葉伊平、山城清次の諸氏夫々任にありて社運の隆昌に向つて精勵す

木炭界の重鎮黒田重兵衛氏の人格

我木炭界に人材尠からずと雖も理想的に大人氣を贏ち獲て議政壇上に送られ衆議院議員として直接國政に參與するの士は蓋し多からざるべし靜岡縣賀茂郡下河津村黒田重兵衛氏は曩きの總選舉に於て賀茂郡より最高點を以て擧げられし代議士なり、資産名望二つながら備はり木炭の技術にも長し且つ深き趣味を以て木炭界に接す、今は木炭の業は營まざれども先代重兵衛氏まで四代の長きに至れり當主は業界の權威者として郡の輿望を荷負ひ縣治の上に郡自治制の上に忠誠事に従はる、賀茂郡木炭同業組合が曩きに第一回木炭共進會を舉行せられしに際し理事者は氏に囑托するに審査員を以てせるが、氏は快諾して終日審査に従へることあり、以て氏が木炭界の人とし木炭業を背景として公共の福利増進に盡瘁せらるゝやを知らざるものなし

下河津村 同じく河津口物として移出さるゝ集散地なり、然れども上河津村と異り林源不足に傾ける氣味ありて産額稍々少く一ヶ年黒炭十五萬貫、白炭十萬貫内外の産出なり、移出商には中村平太郎、土屋里平、稻葉丈吉、稻葉寅吉、加藤義藏の諸店あり

稻生澤村 三里四里を隔たる近在の林地を資材材となせるが過伐の爲林源不足し現在にては七

八年産の若木を資材とせる傾向なれば細口比較的多く寧ろ小丸に失するの感あり近時黒炭角俵正味四貫の製出を獎勵し白炭年移出六萬貫黒炭二萬貫内外なり、下河津口物に屬す移出商には中ノ瀬株式會社を筆頭に、同社は下河津方面の大半を取扱ふ、外に山下福松、鈴木梅之丞、白井元吉、鈴木萬吉、山田藤太郎、村山常太郎、岡崎森一の諸店あり

稻梓村 下河津口物として同港より移出す生産地は四近林地七八年生の若木多し、同地は郡中の主産地にして仁科に次ぐの盛況を呈し、年産額白炭二十八萬貫黒炭五萬貫内外を産し漸次黒炭に化しつつあり、林地面積三千六百町歩は同村當業者の支配圈内に屬し輪伐法を以て進めば現状維持難からざるべし、移出商には清野晉平、鈴木彦次郎、土屋友作、土屋萬吉、土屋義雄、鈴木仙治、加藤梅吉、村山春吉の諸店あり

仁科村 同村は郡中の多量産地にして黒炭としても先進地なり年移出額四十萬貫を下らず尙少量の白炭をも産す、仁科報徳信用購賣販賣利用組合が殆んど一手に移出をなし生産者に對し資金の融通をも圖り居るを以て、移出木炭は概して統一せられ取引上に至便を供し居れり、外に鈴木利平商店あり、資材林は大半民有林なれば資材も良種なり

岩科村 岩崎、松崎は共に松崎より移出す、岩科村は白炭を主とし年産額三十萬貫黒炭は八萬貫

薪炭米穀問屋

東海道沼津市



風間宇作商店

電話三五七番

靜岡縣沼津市仲町

電話三百二十四番

甲寅新炭店

新井寅吉



薪炭商 佐藤商店

東海道三島市ヶ原
長電話二五九番



薪炭問屋 長倉元一郎

靜岡市葵町一番地
電話一五四一番

木炭問屋

靜岡市錦町
佐藤英雄商店
電話一四四九番

木炭問屋

靜岡市錦町十五
望月善光商店

薪炭商

靜岡市馬場町二九
杉本萬吉商店
電話一六四三番

薪炭輸出商

靜岡縣富士郡大宮町

標商 今山城屋商店

店主 佐野義一

木炭問屋

望月留藏

靜岡市安倍町二一十一番地

薪炭問屋

靜岡縣清水湊



杉山寅吉商店

電話一五四番

木炭生產

靜岡縣榛原郡五和村

標商



責任有限

五和

信用販賣

購用利

買用組合

電話四十番

移出販賣

榛原郡木炭同業組合地区内
遠州金谷町

木炭移出商

⑦ ③ ④ ③ ②

森下 伊藤 大石 成瀬 久保

商店 商店 商店 商店 商店
電話二十五番 電話六十九番 電話十三番 電話七十七番 電話(夕ホ)

商標 木炭卸商

佐藤商店

伊豆國田方郡田中村吉田

店主 佐藤彌太郎

電話大仁四十四番

木炭椎茸移出

静岡縣伊豆大仁驛前

菊地新平商店

電略(キクチ)

木炭移出商 中村平太郎

伊豆賀茂郡下河津村見高

電略(ナカ)

木炭移出 相馬宇吉

伊豆賀茂郡上河津村筏場

電略(ソオ)

木炭移出商

伊豆賀茂郡松崎町道部

渡邊保商店

伊豆木炭

商標



東賀製炭株式會社

伊豆國賀茂郡湯ヶ野二百十四番地

電信略號(トキ)又ハ(ト)

伊豆木炭

商標

河津物産合資會社

伊豆國賀茂郡上河津村

振替口座東京二二三〇三三番
電信略號(カ)又ハ(カワ)

木炭製造販賣並に海運業

伊豆國賀茂郡稻生澤村

商標



中之瀬株式會社

靜岡縣賀茂郡下田町長屋町

伊豆木炭

下田商事合會社木炭部

電話下田 一三三三番

營業 薪炭竹材賣買倉庫業、問屋業
科目 回漕業、産業資金の貸附其他



伊豆産業株式會社

本店

静岡縣賀茂郡岩科村道部
東京市京橋區本湊町十一番地
電話 京橋 四六一四番

木炭優品大量取扱

出張所

静岡縣賀茂郡三濱村妻良
同縣同郡竹麻村手石

静岡縣賀茂郡仁科村

無限責任 仁科報德 信用購買組合

振替口座東京五九六二八番

木炭移出商

伊豆國賀茂郡稻梓村

③ 清野音平

電話(〇)サ

薪炭竹材商

伊豆國賀茂郡稻梓村

④ 鈴木彦治郎

内外にして品質優良なる白炭の産地なり、現今にありては黒炭の有利なるに鑑み仁科角俵と同種なる黒炭を奨励し白炭の産額減少と共に黒炭は年次増加の傾向なり、移出商には伊豆産業株式會社、岩科回漕店、中村林吉、佐藤平兵衛の兩店の外眞野渡邊の兩店も稀れに取扱はる

松崎港

下田港に亞ぐの港灣にして中川、岩科兩村の産悉く此處に集中し東京市場を主として供給先となす、此地に店舗を構ふる移出商には土屋徳太郎、北條徳太郎、渡邊保、山本誠の諸店あり

岩科村産出の白炭は澁價殊に高し

愛知縣

二八〇

豊橋市 一ヶ年八十萬貫を消費さるゝ都市にして縣下南北設樂郡産の八貫大俵大部分供給され尚ほ鳳來寺山より産する正五貫稟角俵の消費地なり、現今にありては木炭需給の範圍擴大して西に東に多方面より供給を仰ぎつゝあるがその鳳來寺産は品質優良の聞へ高く横濱市場を始め東京市京



薪炭問屋 井上信吉

名古屋市中區東田町三ノ四
電話東二七二九番電略(シン)

橋、深川方面へ供給されつゝありて、移出を營むは加周支店、大三商會、加藤莊八郎の諸店にして土地に於ける薪炭販賣商には中西清七、渡邊嘉七、原音吉の諸店あり

名古屋市 東京大阪に亞ぐの大消費都市にして舊時は尾張六十一萬九千五百石の城下たり現今人口八十萬に達し、木炭の消費量一ヶ年二千五百萬貫を示し、三重縣飯南郡の産、和歌山縣の備長北陸、岐阜、北海道の産供給され、最近にありては山陰木炭の販路市中に延び多額の移入あり、その石見江津町の江津商業株式會社が萬清商店を一手特約店とし精選せる石州産を供給しつゝあるの如き山陰木炭が此地に販路を擴めたる上に顯著なる事蹟を残せるものあり

又支那木炭も供給せられつゝあり、薪炭問屋の主なるは左の諸店とす

薪炭問屋 萬清商店、河邊松藏、河津兼次郎、溝口清八、井上信吉、淺井鉦太郎、杉山菊三郎、
横井半三郎、山邑豊吉、岡鐵商店、遠藤商店、伊勢長商店、

埼玉縣

埼玉縣に於ける木炭の主要生産地は秩父郡なり木炭改善施設としては入間郡のみを除ける四郡を地區とせる埼玉木炭同業組合の設置ありて地區内全産額は正味七貫と五貫と三貫とを込めて一年九十萬俵、貫量に於て約五百萬貫の産額を示し組合員數二千六百餘名を網羅せり、主として日炭の産地にして包装は葎折込造りを以て稀れに中央市場へ供給するあれども多くは縣下に於ける家庭用、養蠶用製茶用等に消費されつゝありしが、同業組合當局には消費地の情勢に鑑み黒炭の用途多きに悟り夙に黒炭製法の普及に努め之を角俵造りとして製出するもの年次數量を増加し現今にては全産額の約二割にも達せんとする傾向なり、一面埼玉縣下に於ける木炭の消費量は年額一萬二千萬貫に達し居れば、結局に於て七百萬貫は他縣産の移入を仰ぐの状態にありて而も東北方面より福島縣へかけての製品黒炭が用ひらるゝ情勢なるを以て組長松本金太郎氏は常に力説提唱して黒炭化を宣傳し

之が改善施設としては黒炭改良竈を築設せるものに對しては一竈幾何の補助金を下附するの規程を設くる等、或は同業組合經營として製炭研究所を設置し黒炭と白炭との比較研究と時々販路並に中央市場を視察し、又は黒炭の先進地を視察して採長補短以て木炭の經濟的發達に努むる所ありて組長自ら出張する外評議員代議員並に組合の職員等をして視察團を編成し數度に亘りて視察を遂げ來れる如きは埼玉木炭の改良發達に貢獻せる蓋し少からざるものあり、本誌は生産地並に荷主案内の趣旨に依り左に主要驛の概要を述ぶることとすべし

秩父町

埼玉木炭同業組合事務所所在地にして中仙道熊谷驛より高速度電車一時三十分間に至る秩父郡中に於ける主要移出驛にして一ヶ年移出量を大正十二年度の調査に見るに白炭三百三十四萬五千二百三十貫、黒炭十五萬千九貫を示せり、移出先は中仙道各沿道の消費地と、縣外は東京新宿、神田區佐久間町川岸、淺草、本所、芝方面にして、群馬縣新田郡方面へも多少の販路を持續しつゝあり。

秩父驛へ集散の産地は大瀧村及浦山村並に小原野町方面よりせるものもありて就中大瀧村は薪炭林豊富にして無盡藏とも稱すべき官有林なるが樹齡も從つて古きもの多ければ大焚物として養蠶又は機業場等に多く仕向けらる然れども亦更新林の若木にも乏しからざるものあり殊に同業組合は近時

小割の調製を提唱し燒方の改良をも指導し當業者亦自覺せる傾向あれば往昔の粗品大焚は次第に改まり尙ほ浦山村方面と共に黒炭角俵の製出を見つゝあれば、奥州及び福島縣等より供給さるゝ黒炭の消費地に向ひ秩父角俵として販路を擴むるの傾向となるべし、而して黒炭角俵は正味四貫と三貫五百目の二様あり

移出商 には秩父町に萬屋三之助、大橋淺五郎、上石吉三郎、松本源次郎、野澤喜藏の諸店あり
大瀧村に至りて加藤今吉、上石喜平、合名會社高野商店、横田龜吉、井上彌兵衛の諸店を數へ、
浦山村に至りて海老原長吉、高饒村には黒炭を主とする若林省三商店あり

秩父町の大手筋大橋淺五郎氏

大橋淺五郎氏は秩父産木炭の移出を營むの外東北各地へも取引の手を延べ移入販賣を營みつゝありて秩父木炭の取扱高のみにて一ヶ年十萬俵の多きに達せること屢々之あり、其木炭部は令嗣良太郎氏に依つてせらる、大橋淺五郎氏は滋賀縣蒲生郡西櫻谷村の出身にして氏の生家は百四十年來系統連綿として五代目吉平氏に至りて始めて埼玉縣比企郡小川町に轉住し酒造業並に荒物質商等を兼營し榭屋の商號は四邊に聴え高かりき、然るに明治十三年一月の同町大火に財産は全く烏

有に歸し又吉平氏は不幸病を得て他界へ逝かるゝことゝはなれり、超えて明治十八年に至り現店主に依つて秩父町に移轉し、災後復興せる資力に依つて米穀、醬油の販賣を開始し精勵業に従ひつゝあるうち、秩父の薪炭林の豊富に着眼すると共に偶々秩父木庄間の縣道開鑿に依り交通の便開けたるを機會に其沿道の養蠶家へ木炭を供給せば自己の業務としても有利なるると共に需用家の便又多かるべしとし、茲に始めて木炭問屋を創業することゝなり、家庭用とを併せ各地へ手廣く販賣し不斷の努力は商運をして益々隆昌に導くことゝなれり、而して明治三十四年の交より縣外移出を開始し、埼玉縣下の各地より東京市場へ供給し其販賣高に於ては秩父町木炭問屋のうち裕に一等級を抜くの盛況を呈するに至れると共に東北各地及び、石川、富山の各縣産をも移入を仰ぎ之を消費地へ販賣しつゝあり、斯の如き氏は公共方面にも熱心にして埼玉木炭同業組合に評議員たること三期を累ね又去る大正十年及び十一年に開ける埼玉縣山林會主催の木炭共進會にも擧げられて審査員となる、齡未だ五十有七歳、壯者を凌ぐの意氣は店務を統掌し精勵家商の上にあるありされども木炭部は良太郎氏に依つて活動す蓋し大橋氏の如きは眞に我業界の精華と謂ふべし

小鹿野町 産地は兩神、三田川の兩村を主とし、民有林豊富にして樹齡若く樹質も良好にして白炭年額六十萬俵内外の産出ありて、秩父線なる秩父、親鼻、皆野、國神の各驛より移出す

移出商 小鹿野町には齊藤一策、小池道藏、坂本近藏、市川仙太郎、百瀬忠衛の諸店あり、國神村には櫻井明治郎商店あり、下吉田村には引間光太商店あり

寄居町 大里郡に屬し埼玉木炭同業組合の地區にして秩父木炭の移出あり、産地は白鳥、日野澤、樋口、槻川の各村にして主として民有林を資材とせり、過伐の跡更新林多く樹齡十四五年よりの資材を以てせる故、質優良なるが、産額少く僅かに年額十五萬貫程度なり。

移出商 關根友五郎、酒井嘉平の兩舗ありて、熊谷、深谷方面より稀には東京へも移出す

埼玉木炭同業組合の概況

埼玉木炭同業組合は其業務の成績に於て他の模範として推獎せられ遠く鹿兒島縣木炭同業組合より或は島根縣各郡木炭同業組合より視察の杖を此の地に曳く、製品としては其土地古來の風習あり又各々消費先を異にして居れば必ずしも一樣ならず埼玉組合地區内の製品は多くは白炭にして包装は萱の兩折口なれば群馬縣多野、碓氷吾妻の各郡の如き、又信州南佐久郡の包装の如きなれば現今大消費地に迎へらるゝ如き包装ならず品質も又敢て學ぶべき點少しと雖も、業務狀況としては確かに先進模範とすべきもの多々あるを信ず、たとへば検査方法の如き移出と地區内販賣と

に拘はらず單行制度にして一度検査せば販賣取扱をなし得ることとなり居りて、等級別毎俵検査なり、又等級の査定に就いては毎月二回の比較検査を行ひ検査員の鑑識を統一することに努む而して不合格品に就いては故意と過失に論なく直ちに差押へ組長に申告すれば組長は直ちに改造命令を發す此の不合格品に就いては改造せると否とに拘はらず一俵一圓の過怠金を徴收し改造せざるうちは絶対に販賣を禁止し居れり、斯くの如くなれば検査に權威ありて、製品も亦統一せられ市場に聲價を博するに至る結果となるべし、因みに組長松本金太郎氏は創立以來組長の職に在り齡六十を超ゆるも老驥屈せず毎日組合事務所へ出勤して該般の事務を親裁し居れり曩きに衆望を荷負ふて縣會議員縣參事會員たりしも一期にして後進に譲り専念組合の事務を執掌す、因みに組合の事務に直接せる正副組長及び職員は左の諸氏なり

組長 松本金太郎、副組長 小池道藏、淺賀藤之助、引間辰雄、吉田定助、會計 諸君太郎、書記 新井武文、検査部長兼技手 吉川茂三郎、検査員 關根金、伊藤重吉、高橋類太郎、中里鶴松、小林實平、宮谷酉藏、齋藤松衛、吉田芳平、福島梅七、荻原家佐治、加藤下弘、齋藤忠三郎、黒澤一郎

秩父木炭移出商

埼玉縣秩父郡秩父町

商標 **万屋三之助商店**

電話 一一三番 (電略ヨロ三)

埼玉縣秩父郡大瀧村強石

材木 米穀 木炭 商標 **加藤今吉商店**

電信略號(ヤマカ)

木炭雜貨商

埼玉縣秩父郡小鹿野町

標商 **田** 小池道藏商店

秩父改良木炭輸出

埼玉縣秩父郡小鹿野町

坂本近藏商店

酒造
木炭
雜貨

商



埼玉縣秩父郡大瀧村強石

會社
合名 高野商店

電信略號(夕力)

木炭移出商

松屋號

標商



上石喜平商店

埼玉縣秩父郡大瀧村強石

埼玉縣の消費地

川越市 人口三萬五千白炭は主として日向物山陰物を迎へ黒炭は福島縣産の供給最も多く一ヶ年消費量を川越市三驛に就いて調ぶるに縣外より入荷するもの百四十六萬六千四百貫に達し其外地物にして鐵道に依らざるものあり製茶養蠶用に供せらるもの多く、近郊部落三十數ヶ町村は川越市薪炭問屋の配給圏内に屬するを以て此の如き多額に達すべし即ち其配給範圍は坂戸、古谷、高階、芳野、福岡、南畑、福原、三芳野、植木、富岡、松山、鶴ヶ島、堀兼、元狹山等にして右仕入産地の外に野州本線、今市方面産、岩手、青森、宮城の産、白炭にありては山形、秋田の移入量も相當にあり、製茶用木炭の仕入は三月上旬より弗々取かゝる、尙ほ人口増加と共に、家庭用木炭も年次増量の傾向にあり

薪炭問屋 石山半次郎、矢島利三郎、横川是哉、戸口源五郎、新井長治、小川士一、島田儀右衛門、齋藤常吉、高橋才次郎の諸店あり

所澤町 川越市と共に狭山銘茶の産地を控へ、亞ぐに養蠶用と木綿織物工場と家庭用とに消費せらるゝ數量は一年黒炭七十五萬貫、白炭十萬貫の巨額に達せり、供給範圍は東京郊外としての人

口増加に伴れ池袋に近接せる方面までも手を延ばし池袋薪炭問屋とかち合ふことさへ屢々あり又中央線立川方面まで青梅線方面へも此地の商人に依つて供給し、薪炭問屋數店と小賣販賣業者六十店は斯業に従ひ居れるの盛況なり、仕入元産地は殆んど川越市と同一系統なり

薪炭問屋 所澤町を中心とし西所澤、入間川、入曾、豊岡町を網羅せる中武薪炭商組合ありて各々産地直移入販賣を營む今組合員名を擧ぐれば左の如し

組長三上菊次郎、副組長山崎七郎、理事小谷野菊之助、池内近三、組合員所澤町杉田治平、小澤洪藏、森田秀吉、荻野源太郎、井關武作、五島金太郎、二上吉五郎、粕谷平助、西所澤町増岡龜之助、入間川松本要次郎、田島民平、入曾驛齋藤清十郎、豊岡町原島茂七、齋藤惣平、野村啓助
山崎忠次郎

飯能町 往昔は外秩父吾野、名栗の産此地に集散し此地商人は主に其移出を營み居りて東京市場へも旺んに供給したれども今は唯兩村産の年額二十萬貫を土地用と所澤、入間川、豊岡、川越方面へ供給し、養蠶用としては九州及び支那木炭の移入を仰ぎ、黒炭は福島、岩手、栃木等の産地並に山陰方面より供給を仰ぎつゝあり吾野、名栗の産地は薪炭雜木林よりも針葉樹植林に主きを置けるの傾向にてあれば薪炭の産額は自然減少することゝなるべし、製品は萱の折込俵にして三貫五百

目、五貫目、六貫目の三種とせり樹齡若く品質佳良なり

薪炭問屋 飯能町 鳥田平吉、齋藤仙松、近藤稻太郎、譽田榮次郎、坂田吉平、久下喜助の諸店を主とす

八王子市 東京近郊の大消費地にして横濱市と情況を同ふし去大正五年創立されし八王子薪炭同業組合の組織の如きも横濱市と同じく問屋も小賣商も打つて一丸とし創立以來引續き井上久吉氏組長の職に在り、一年間の木炭入荷量は、大正十四年度に於て黒炭一萬二千噸、白炭百二十噸にして以前は近在の製品と北陸東北方面より移入せらるゝの程度なりしが、今日にありては山陰、九州、北海道、支那の各種の移入ありて、伊豆松崎物の如きは古へも今も引續き需給關係を保ちつゝあるが山陰木炭の如きは僅かに茲三四年此の方の新販路とす、組合員數は三百餘名の多きに達せり
薪炭問屋 には井上久吉、福田恒三、内山邦八、高杉林太郎、金丸商店、川端清太郎、清水小市の諸店あり

武州中仙道の消費地

川口町 鑛物工場の所在地にして松炭の消費多し同町は東京近郊にして人口も年と共に増加す

八王子市薪炭問屋

| | |
|---|---|
| <p>木炭荒物雜貨 八王子市驛前 金丸商店 店主 金丸長次郎 電話 三六四番</p> | <p>八王子市八幡町 井上久吉 電話 六二九番 略 (イ)</p> |
| <p>薪炭荒物 八王子市萬町 高杉林太郎 電話 五三四番 略 (タカ)</p> | <p>薪炭問屋 内山邦八 八王子市八幡町 電話 略 (ニク)</p> |

諸國木炭問屋

武州川越市六軒町

高麗屋本店

商標 倉石山半次郎商店

電話川越四三六番

振替東京二五七七九番

電略(イシ)又ハ(イ)

武州川越市境町

中炭商 矢島利三郎

電話四一三番電略(ヤ)

諸國木炭問屋

川越市志義町

商標 川 横川是哉商店

電話五四八番電略(ヨコ)

各國木炭販賣

營業所

川越倉庫會社內

電話川越四〇番

①木炭問屋 小川商店

自宅

川越市中原町

電話川越六一二番

◇宮崎林業株式會社 東京府下 埼玉縣下 一手販賣

薪炭問屋

川越市上松江町

標商 新井長治商店

電略(アラ)又は(ア)

木炭問屋

埼玉縣大里郡寄居町

標商 關根友五郎商店

秩父郡產木炭移出販賣

中武薪炭商組合員

組合理事者
 組長 三上 菊次郎
 副組長 山崎 七郎
 理事 小谷野 菊之助
 同 池内 近三
 同 杉田 治平
 同 小澤 田 治
 同 森田 秀藏
 同 荻野 源太郎
 同 井關 武作

所澤町
 同 入間川
 同 西澤
 同 所澤町
 同 五島 金太郎
 同 二上 吉五郎
 同 柏谷 平助
 同 增岡 龜之助
 同 松本 要次郎
 同 田島 清十郎
 同 齋藤 茂七
 同 原島 惣平
 同 野村 啓助
 同 山崎 忠次郎

創業明治三十年

武藏野線西所澤驛
 小谷野 菊之助
 電話四番

東京下谷區二長町二七
 小谷野東京支店
 電話二五三九番

中央東線立川驛前
 小谷野立川出張所

安印發賣元

松印發賣元

松印發賣元

店主小谷野菊之助 帳場專務太市

地方係一治 東京支店保之助 店員合計

十八名にして精勵親切業に當る

販賣區域 中央線武藏野線川越線東上線

青梅線多摩線の各沿道消費地を主とす

商品 磐越東線神俣驛前カネタ印藤田爲

之助商店の製品並に川前驛前の安藤金次商

店の製品及び東北本線黒磯驛に於ける精撰

カネ松印木炭を特約し發賣元たり

堅炭は會津、日向、山陰、温州其他各地取扱

商品倉庫 取扱保存を完全にする爲各出

張所を通じ十三棟あり

外に凍氷部 あり日東製氷及埼玉製氷の

地方一手販賣をなす

るを以て家庭方面消費量亦多し薪炭問屋には岡村彦次郎、小池與四郎、湯川松之助、大熊中造、三協商會等あり

蕨町 人口八千餘染織業旺んなる地にしてその乾燥用に薪の需要あり一ヶ年二百車と稱せらる木炭も一年二百五十車を下らず野州本線今市産、東北角俵と秩父木炭の移入あり、薪炭問屋には高橋富次郎、奥田榮藏、熊木辰次郎の諸店あり

浦和町 縣廳所在地だけに官衙學校多く人口一萬七千を數ふ、殊に東京近郊として都人士の此方面に住宅を構ふるあり、木炭の消費量一年五百車を算す、白河、今市等の土釜丸俵を主とし各地産を取扱ふ、噸炭は主に奥羽、東北、信州、九州、支那の移入あり

桶川町 近在の養蠶用及び家庭用合して一ヶ年百六十車内外の入荷あり秩父木炭の供給多く又秋田能登本線各地産の移入あり、薪炭問屋には村田安五郎、岩井善次郎、須瀬善作、比企彦三郎の諸店あり

大宮町 人口二萬五千鐵道省機關庫及び貨車製造工場等職工の在住多く木炭の消費量も年次其量を加へ現今一ヶ年千五百車に達すべし、木線、今市、一ノ關、東北角俵、秩父、秋田、信州等を主とし各地方産の移入あり、薪炭問屋には遊澤徳衛、新井勇次郎、宮周商店、倉持康三郎、野口龜

八の諸店あり

鴻巣町 人口六千五百近在養蠶用を合せ木炭の移入量一ヶ年五百車を數ふ、本線各地、能登秋田、新潟、秩父の各地産を主とす、薪炭問屋には近江好之助、秋笹吉藏、杉浦忠四郎、小林房吉、福島大次郎、仙場平八、石井源六の諸店あり

忍町 足袋の製せらる、著名の地一ヶ年六千萬足の製産ある由にて商工業殷盛の地なり四近養蠶用、家庭用、凡てを通じ一ヶ年五百車の供給を受く人口附近を合せ一萬九千、薪炭問屋には稻原政吉、神山孝吉、大澤藤吉、忍町燃料株式會社の諸店あり、能登、秋田、津川、秩父、九州等を主とせり

能谷町 秩父鐵道の分岐點にして、亦熊谷墨堤の櫻樹を以て聞ゆ、人口二萬有餘、糸業殷賑の地にして木炭の消費量も年額六百車にも達すべし、秩父木炭の供給多く土釜は岩手、福島の兩縣物を主とす、薪炭問屋には田中長一郎、猪俣源次郎、高瀬炭店、ツカヤ木炭問屋、小林圭助、金井福吉、村田庄平、武藏屋商店の數舗を數ふ

深谷町 人口二萬の消費地にして噸炭は秩父、鬼石、信州、西頸城等の産、黒炭は岩手縣、栃木北陸等を主とす持田竹重、萩野圓五郎の兩薪炭問屋あり

武州東部消費地

越ヶ合町 南埼玉郡の都邑にして大澤町に接続し兩町を合し人口五千餘附近一帯人家稠密繁盛の地なり、岩手、栃木、秋田、八戸、九州等より移入を受く、一ヶ年二百車餘、薪炭問屋豊田利助氏の一人舞臺の地たり

岩槻町 大宮町より自動車の便あり距離二里本線蓮田驛より一里の地點なり人口七千、木炭の消費量一年二百車内外、薪炭問屋には有山善太郎、福澤將三郎、増田俊藏の諸店あり福島、栃木、北陸秋田、秩父の産主として供給せらる

粕壁町 東武線沿線に位し人口六千餘木炭消費量一ヶ年三十萬貫(約百五十車)に達す、薪炭問屋には藤村與右衛門、伊勢屋伊勢吉、金井商店の諸店あり

杉戸町 此地以北は養蠶の旺んなる地方にして、季節物の移入多く家庭用を合せ一ヶ年約三百五十車の移入あり、新潟、北陸、岩手、秩父、宮城の各地産の外に九州産、紀州産の消化あり

幸手町 久喜町を距る一里の地點なり近在一帯は養蠶地なれば季節木炭の消化量多く、一ヶ年約三百車に達せん、岩手、北陸、秋田、長野、秩父等より供給を受く、薪炭問屋には阿部恒治、山下

薪炭問屋

埼玉縣川口町

善 岡村彦次郎

電話六十二番
電略(ヲカ)

石炭薪炭問屋

埼玉縣蕨町

今 高橋富次郎

電話三一番

石炭薪炭問屋

中仙道大宮町

爾 倉持康三郎

電略(クラ)又ハ(ク)

木炭問屋

中仙道大宮町

カ 野口龜八

電話一七五番

經濟の親玉

埼玉縣浦和町

商標 不二炭製造株式會社

木炭代用品

電話二三一一番

埼玉縣浦和町

嶗米穀商 湯澤商店

電話十四番

埼玉縣岩槻町

薪炭問屋 增田俊藏

山七印能登本堅(一手販賣)

木炭、肥料、諸油

仙場平八

武州鴻巣町



薪炭問屋 榎本佐久三
埼玉縣浦和町
電話(エ)又ハ(サク)

埼玉縣忍町行田

薪炭問屋 稻原政吉商店

電話百七十八番

熊谷分店 手島源三郎

埼玉縣熊谷町彌生町通り

薪炭問屋 新井要平

埼玉縣加須町
電話一二三番

薪炭問屋

安部恒治

埼玉縣幸手町
電話幸手五二番

薪炭荒物石炭

埼玉縣越ヶ谷町二三〇

豊田利助商店

電話(トヨ)又ハ(リ)

薪炭 齋藤定右衛門

埼玉縣久喜町五二一
電話(サイ)又ハ(サ)

中仙道大宮町

各種石炭
薪炭問屋

遊澤徳衛

電話大宮二四六番

埼玉縣岩槻町

江石炭商

福澤將三郎

電話岩槻七十一番

埼玉縣鴻巣町

木炭商

福島大次郎

振替東京一五九二六

埼玉縣栗橋町

石炭商

江森茂三郎

電話(エモ)

埼玉縣忍町行田

薪炭問屋

神山爲吉

電話(カミ)又は(カ)

埼玉縣幸手町

薪炭官營商

山下四郎兵衛

電話(ヤマ)又は(四)

四郎兵衛、小森谷甚三郎、小島徳三郎の諸店あり

久喜町

東北本線より分岐する東武線の沿道、四通八達の地なり人口六千餘一ヶ年木炭消費量二

百五十車内外にして福島、栃木、岩手、秋田、北陸、九州等より移入を仰ぐ、薪炭問屋には瀧原商店、田中龜太郎、齋藤岩右衛門、澁谷七五郎の諸店あり

加須町

人口二千五百餘、接續せる村落と合せ木炭の消費量年約二百車に達す、養蠶と製茶用も

含まれ、福島、秋田、岩手、會津、北陸、栃木、秩父等より供給せらる、新井要平、關口藤吉の兩舗を主とす

栗橋町

茨城縣境利根川の沿岸に面せる郡邑にして人口約四千、近在養蠶用を合せて一ヶ年百七

十車内外の移入あり、岩手、栃木、福島等を主とし供給を受く、薪炭問屋には坂本駒吉、小林茂助江森茂三郎の諸店あり

群馬縣

農林省の調査に依る大正十三年度木炭産出額は千百九十五萬六千六百二十六貫にして内白炭千九十六萬六千七百四十一貫、黒炭八十九萬三千三百十五貫、鍛冶炭九萬六千五百七十貫と云ふ數字なり

産地は利根、吾妻、碓氷、北甘楽、多野、勢多等を主とす、本誌は縣外移出を營まるゝ主たる地方に就き略記することゝし併せて縣下に於ける主要なる消費地の概況を述ぶることに止めん。

横川驛 西毛木炭同業組合の地區にして主なる移出驛にて信越本線の沿線なり、大部分白炭にして大正十三年度に於ける移出量四十七萬百二十二貫を示せり、同地方は比較的若木多く質も亦優良にして中央市場及中間への移出にありても縣下第一位を示し居れり、産地は横川村を巨る一里乃至二里にて里山なるだけに樹種優良にして十七年乃至二十年生を資材とせるもの多し、包装は菅の丸俵兩口にして稀れに折込俵あり正味量四貫を基準とせり、又同業組合は検査を嚴施せるを以て量目の正確なる中央市場に於ても定評あり、尙同地方は若木にして優秀せる樹種を白炭に製出するの不利を悟り一面需要地の傾向も黒炭を迎ふるところあるより近時黒炭の角俵を奨勵しつゝありて上州角俵として消費地に散見さる、従つて全産額の二割までは黒炭に改まれる情勢なり

移出商 長岡宇市、佐藤猪三郎、峰岸次郎、飯田平吉、煙草屋善太郎の諸店あり又五料村に武井健重、柳澤金之助の兩店あり

下仁田町 高崎驛より分岐せる上信鐵道の終點にして北甘樂郡木炭同業組合地區内の産は此地に集散す一ヶ年の移出量八十一萬貫を算し製品は正味四貫五百日兩折口と兩口柴との二種にして楢

四分雜六分の割合なるが近時黒炭の製出ありて全産額の約一割にも達すべきか、産地は南牧、西牧の兩村を主とし西牧村は兩口柴を充てたる包装にして細物優良品に富み、南牧村は折込造りにして大木多し、細物は家庭小焚用として富岡、高崎、稀に東京へも移出せられ、大焚物は縣下の養馬川並に工場用に仕向けらる

移出商 櫻井朝雄、近藤定吉、中村權四郎、高橋長太郎の諸店、磐戸村に小池巖太郎商店あり

鬼石町 大正八年七月認可せられたる多野郡木炭同業組合の地區内より産する木炭の集散地にして白炭百十二萬貫、黒炭四十九萬五千貫を示し、白炭は正味四貫、黒炭は角俵として製出す、供給先は藤岡町、新町高崎等の縣内消費に充つる外稀れに中央市場へも移出す、産地は神流川流域と其奥地美原、神川、中里、上野の各村にして上野村最も多く同村産は下仁田町へ出廻るものもありて同村には黒澤林太郎、丸山和十郎、茂木泰次郎、高橋今朝雄、相馬峰一郎の諸氏生産業者として知らる、又三波川村も同地方に亞ぐの産地にして飯塚清氏在り氏は多野郡木炭同業組合に組長として多年就任し良組長としての聞え高く且一面製炭事業をも營み其自家製炭は全部黒炭となし其有利なる範を組合員に示しつゝ熱心に黒炭の奨勵に努力せらる組合技手には飯塚勘次郎氏ありて氏は大正式に依り夙に其蘊奥を究め、地區内改良技術の普及を勵けむ、而して同郡の薪炭林蓄積に至り

ては上野村一帯より秩父に連続せる山麓は廣范なる林地を以てすれば施設を誤らざるに於ては將來幾十年も保続せらるべしと云ふ

鬼石町木炭商 新井久右衛門、岸和田商店、鬼石商事株式會社、松浦萬吉、松木利三郎、山田伊助の諸店を主とす

足尾線澤入驛 勢多郡澤入村にして東毛木炭同業組合の地區なり、同地は足尾線中第一位の移出地にして一ヶ年黒炭六十七萬五千貫白炭二十五萬七千五百貫を示し東京、埼玉、八王子、千葉、神奈川の各地へ移出す、生産地なる東村の如き全村悉く山林に包圍せらるゝの觀を呈し密林なり面積六千町歩と稱せられ悉く民有林なり、移出商としては村井彌市、米田清助、小森谷金次郎、永井清次郎、森口庄吉、齋藤作太郎の諸氏あり、村井彌市氏の如き一代の功を製炭等に依つてかち獲たる人にして其所有薪炭林に對しては秩序ある輪伐法に依り又製炭法の如きも精緻を極め居れば市場に聲價あり、同地方は比較的雜木多く若木は品質良好なり

花輪驛 足尾線にして東毛組合の地區なり、此驛より移出せらるゝもの四十二萬五千貫にして大部分白炭にして黒炭は僅かに一割五分に過ぎず量目は正味四貫五百目を基準とせり、此驛集散木炭の産地は小中野方面にして樹齡若く樹種優良なり又根利村より産出するものあり一年約五萬俵と稱

黒炭専門

上州勢多郡東村澤入

村井彌平

製炭輸出問屋

上州足尾線澤入驛前

⑦ **米田清助商店**
電話(ヨネ)又ハ(〇セ)

薪炭移出

上州足尾線澤入驛前

⑧ **小倉留藏商店**

製炭輸出

上州足尾線澤入驛前

⑨ **森口庄吉商店**
電話(モリ)又ハ(〇モ)

製炭製材業

群馬縣勢多郡花輪

③ **桑原陽三郎**
電話(マル三)

木炭移出商

信越線横川

⑩ **飯田平吉商店**
振替東京一九二〇七番

せられ星野浦次郎、桑原陽三郎、の兩店に於て主として移出を司る、供給先は東武、兩毛の沿線消費地と千葉、茨城の兩縣下稀れに東京市場より東海道方面へも仕向く、薪炭林の蓄積尙ほ豊富なり
移出商 星野浦次郎、桑原陽三郎、海老根萬太郎、松崎嘉市の諸店あり

群馬縣の消費地

群馬縣の消費地として之より紹介する各地の内大間々町及び高崎市の薪炭問屋中縣内産の移出を營まるゝものもあれば以下見落しなきを望む

高崎線新町 鐘ヶ淵紡績新町工場を始めとし製糸工場等あり、人口亦一萬六千を數へ最近の發達著るしく家庭用工業用工場用に供せらるゝもの一ヶ年消費量白炭二十萬貫黒炭十二萬貫を算し鬼石木炭過半此地に消化せられ、補給は東北角俵、北海道、九州、信州、北陸の各地よりす、薪炭商には柴山三郎商店が獨り舞臺たるの觀あり

高崎市 人口五萬の消費都市にして又一面群馬縣下の産西毛、北甘樂方面物の移出をも營まるゝ業者ありて、他縣より移入を仰ぐべき數量一年三十五六萬貫を示す一方には三十萬貫内外の移出ありて、池田孝作、原傳吉、高橋長太郎の各店は薪炭の卸を營むと共に縣外移出をもなすつゝあり

此地へ供給せらるゝ、縣内産地は北甘樂郡と群馬郡三の倉、碓氷郡烏淵村、吾妻、利根の兩郡等にして、移入産地は東北八戸湊、野州本線、北海道、九州、支那木炭等なり

前橋市 縣治の中心地にして人口六萬五千を算す、木炭の消費年額三百五十萬貫内外と稱せられ縣内は利根、吾妻の兩郡を主とし、縣外は東北各地、野州本線、北海道、九州、北陸の各地産の外最近支那木炭の移入もあり、薪炭問屋には今井兄弟商會、鈴木惠助、唐澤時次郎の各店を著名とし副業者を加ふれば薪炭の販賣を營むもの四百店に近し、今井兄弟商會は上越線澁川及び沼田驛に出張所あり手廣く縣内産を取扱ふ外縣外各地より移入をも仰ぎその卸販賣を營むと共に稀れに縣内産の移出をもなす

大間々町 足尾線の沿道にして消費地たると共に東毛木炭同業組合地區内産の移出地たり、東毛木炭同業組合は大正十一年十二月の設置認可にかゝり山田、勢多の兩郡十三ヶ町村を網羅し一ヶ年の産額檜堅正味四貫五百目雜堅正味四貫を主として外に黒炭の産出ありて大凡四十五萬俵を示せり、其産地は主として勢多郡にして此地商人には四近消費地へ販賣供給する外兩毛線沿道、東武線沿道の消費地並に東京府下、東海道方面へ移出をなす、大部分樹齡若き細堅にして檜雜相半ばし家庭用に適す、薪炭問屋には星野新吉、近藤寅五郎、小屋玉吉、山口三男の諸店を重しとなす

桐生市 織物殷盛の地にして關東第一の稱あり、人口五萬に近く去る大正十年四月市政を布かる
木炭の消費量年額三百五十萬貫にして黒炭七割白炭三割の率にて需用せらる、工場用、官衙、家庭
用として夫々其嗜好に應じ縣内足尾線、利根、吾妻の産を迎ふる外東北各地の黒炭の移入あり、堅
炭にありては秋田、山形、會津、九州、支那の諸國より移入され尙ほ北海道の黒炭大俵と最近山陰

石炭 柴山三郎
群馬縣新町驛前
電話二十九番

石炭 栗原安太郎
群馬縣館林町新宿
電話二十七番

木炭 下野屋商店
桐生市濱松町
稲川 藤吉

線物の供給せらるゝあり

伊勢崎町 薪炭問屋には小林吉三郎商店と金子商店の兩舗あり一ヶ年消費量四十萬貫黒炭六割
白炭四割の率なるべし人口一萬七千を數ふる外、近在の養蠶用に消化せらる、縣内産以外東北八戸
港方面より供給を受く其他北海道、九州、山陰、支那木炭等移入あり
因みに此地へ東北産黒炭角俵の供給の嚆矢は八戸木炭株式會社にして、小林吉三郎氏其販賣を一手
に特約し同町及び近接各地に配給せるに始まり、青森縣三戸郡産の驛價を認識せらるゝに至り、現
今にありては東北産地の注目を惹くの消費地となれり

木炭移出問屋

群馬縣山田郡大間々町

福岡屋號 星野新吉商店
電話二十八番

足尾線水沼驛 通 星野運送部

木炭木材製産移出

群馬縣足尾線大間々驛前

松葉屋 近藤寅五郎商店

電略(コン)又ハ(トラ)



八戸木炭株式會社製品

兩毛東武高崎各線特約代理店

群馬縣伊勢崎町

米穀 木炭 問屋 小 林 吉 五 郎 商 店

木炭問屋

群馬縣桐生驛前

翁 森 下 利 八

電話四五八番

全

桐生市木町一丁目
木炭問屋 川島商店

店主 川島輔一郎

薪炭問屋

足尾線大間々驛前

上州 堅炭

山口三男商店

水沼驛前

水沼出張所

館林町

此地は野州安蘇郡産大俵の迎へられし地にして今も尙ほ大俵を好むの習慣ありて秋田縣産の八貫、津川の十貫等を散見す、縣内は足尾線よりし、縣外は山形、信州、秋田、岩手、福島、北陸、九州、北海道の各地より受け、一ヶ年消費量四十萬貫内外なり、人口一萬八千なれども四近一帶養蠶地ならだけ木炭の量も加算す、薪炭問屋には平原安太郎、瀧澤禎三、岩崎莊三、鹽野商店、清水商店、飯野若治、關井清四郎の諸店の外約八十店あり館林薪炭商組合の設置あり

栃木縣

總 說

栃木縣に於ける一ヶ年木炭産額は一千三百六十九萬七千六百六十九貫にして内黒炭七百六十八萬八千五百二十九貫を示し、白炭は阿蘇郡及び日光線今市驛より移出する上都賀、鹽谷、河内の一部分にして他は主として黒炭にして殊に那須郡にありては大部分黒炭にして野州物としての名稱を代表せるは同郡産なりと云ふも過言ならざるべし、以上は農林省の統計表面に現はれたる大正十三年度の數字なるが、黒磯驛移出一ヶ年數量のみにても三百二十萬貫を示し居れるに見て或は實際の産額は千五百萬貫にも達すべきか、而して同縣が木炭事業の向上に對して如何なる施設を勸奨し居れりやを

尋ねるに、縣の方針は地形と事情とを同ふする一郡又は數郡を地區として同業組合の設置を奨勵し芳賀、今市、阿蘇、野州北部、野州南部の五同業組合の設置あり更に之を聯合し其規格を統一すべく委員會を組織して略ほ具體案を見るに至りたるが、現在行はるゝ包装及び一俵量目は黒炭角俵は櫓を正味四貫五百目に雜木を正味四貫目に、丸俵にありては櫓を三貫五百目に雜木を三貫三百目とし、芳賀本線筋、今市等末だ多少の相違あれども大部分は此標準を造ひつゝ縣下を通じて一定せしむるまでの運びに至らざるが如し、尙ほ縣は下野山林會を督勵して時々製炭講習會を開催して改良の普及に努むる所ありて、東北物の爲に糶食せられし觀ある野州木炭の販路は幾分回復に向へるの傾向ありと雖も其俵裝に於て、必ずしも中央市場向たらざるの憾あるため多くは府下及び近郊に販路を有し中央秋葉原驛等への入荷は府下及び近郊消費地に比して其入着量比較的少きが如し、然れども栃木縣一班に亘り概して若木に富み居るを以て中央市場に於て歡迎する若木丸物の産多きを以て角俵の品不足の場合は品質に依り角俵代用とし供給せらるゝの姿なれば、今後の改良は自然角俵造となりて近距離なる中央市場との取引關係をして益々濃厚ならしむるものあるべきは、品質内容の改良と共に包装の改善亦刻下の急を要する次第なるべし、本誌は之より主要の移出地と荷主、巻尾に兩

毛線沿道の消費地の状況を略述することゝすべし

日光線今市驛

上都賀、鹽谷、河内の三郡を地區とせる今市木炭同業組合地區内産地より移出す同驛より移出せる大正十四年度の數量は黒炭十九萬三千六百十三俵白炭にありては舊價十二貫俵を三萬二千六百十一俵、七貫俵を三萬五千三百十五俵、四貫俵を三萬二千六百餘俵を算せり、移出先は東京山手方面、埼玉縣川越市を主とし同縣下の需要地に供給す、組合は生産地を督勵して検査の勵行と共に正味量の充實を期しつゝあり、尙ほ近時角俵をも奨勵して大消費地の嗜好に適はしめ販路の擴張に努む

移出商 には中村角平、福田佐太郎、村上義郎、高山林、片山卯平、齋藤要作、大栗三五郎、飯

野徳四郎、八木澤久吉、山本昇一郎、山田松太郎、齋藤重一郎の諸店あり

鳥山驛

本線寶積寺驛より分岐せる野州南部木炭同業組合の地區に屬せる主要移出地なり、同地は茨城縣境の山林を背景とし薪炭林の蓄積豊富なり、此地より製出するものは従來小俵なりとの非難ありて本線物に比し常に十五錢方の低價にありしが同業組合の設置と共に規格を統一し本線物に劣らざるよう努めつゝあるも黒磯方面の産に比すれば一俵十錢方の値開きを存する狀況なり、近時焼製法の吟味と共に選別に注意し居れば稍々聲價の認むべきものあり

移出商 には福田商會を筆頭に、高橋春吉、吉成商店、星商店、川匂三藏、森島忠太の諸店の外に大正十四年五月より開業せる矢野留松支店あり

生産地は那須郡七合、境、向田、下江川、武茂、大山田、大内、並に芳賀郡の一部と茨城縣の太子依神方面にして樹齡は十年乃至二十年にして丸物多く柵の如き七八年生を資材とせり、製炭法の改良と相俟つて良品産出難からざるべし、量目は柵正味四貫に楢を正味三貫五百目に、雜木を三貫三百目とし、本線に遜色なき製品の製出に努む

黒羽驛 本線西那須野驛より分岐せる東野鐵道に搭乘し三十分にして着す、年産出額二十五萬俵を下らず、林源地は八溝山脈の麓なる國有林を主とし數年前より既に十五年乃至二十年の輪伐法に依り年々公賣に附せらるゝものなるが其總體面積は實に二百萬町歩と稱せらる、此地木炭は黒磯黒田原に亞ぎ野州木場木炭として聽えあり、東京市場へも各所へ供給せらるゝも近時は多くは市外及び近縣へ仕向けらるゝの量多きが如し、同地は野州北部木炭同業組合に屬し、尙ほ黒羽薪炭商組合の組織ありて同業組合と提携し製炭法の改善に努め昨十四年十月大正式に依りて三十日間講習會を開催し、續いて本年二月大規模の木炭品評會を舉行せるが、生産者は競ふて優品の製造に努めつゝあり

移出商 には飯島徳之助、野田鳥之助、瀧澤芳太郎、山口彦次郎、富岡清作、山口壽、山口利喜太、宮永清茂の諸店を主とす

黒磯驛 野州木場物の中心地にして其製品は黒田原驛移出木炭と共に優位を占め、傾開きに於ても五錢方の相違を保ち居れり生産地は那須村の大資源林を巨ること五里、更に須賀川、高林の兩地へは平地七里を離るも交通の便整頓し居れば搬出の上に使多し、樹齡は國有林の太木を除くの外は十五年乃至十七八年の若木にして丸物多し、國有林二分民有林八分の割合なるが薪炭林の蓄積にありては概して豊富と云ふべく唯原木の高價なるを仰つのみ、同地は野州北部木炭同業組合の中心地區にして、又黒磯薪炭商組合の組織あり、同組合は一昨十三年十一月木炭品評會を開催して優品の製出獎勵に努めし以來面目一新の傾向あり又同業組合は等級別検査を嚴施し製品の統一と量目の正確を期しつゝあり、一年移出額一百万俵と稱せられ、楢丸を以て主とし次に雜丸、柵丸の順序なるが、柵丸の如き近時内容の改良顯著なるものありて、常陸本場の代用品とし其用途に充てつゝあるが格安なるを以て常に需用は持續せらるゝ状況なり、而して一般黒磯物の仕向地は東京は新宿、飯田町、秋葉原、隅田川、品川、更に山手方面の各驛にして、其他近郊近縣に販路あり

移出商 には藤田寅雄、植竹クマ、禰田永吉、江面覺一郎、江面伊三郎、大森力三、石川宇吉、

大森源吉、渡邊修一、金澤清作、高久末次郎、高久喜十、奈良宇三郎、中島二郎、植竹虎太、相馬驥、鹽水繁壽、平山吉之助、平山伊二郎、毛利農場、瀬尾西春の諸店とす

黒田原驛 年移出額五十萬俵を下らず櫛二分櫛五分雜三分の割合にして多くは丸俵の慣習を墨守し近時角俵に改むる傾向を有するに至れるも、野州丸俵獨特の販路を保ち居るを以て強いて角俵に改むるのを認めずと云ふ聲さえありて、野州北部木炭同業組合に組長たる同地の大手筋藤田勇氏の如き自家製品の改良成績を参考として生産者を督勵し、中央市場向製品の製出に宣傳寧日なく或は講習會の開設を唱導して製炭技術の向上を圖る等、相伴ふて製品の價値を高め來り聲價の認めらるゝものあるは野州木炭の前途に對し慶ばしき現象と謂ふべし、移出商には同驛移出商を網羅せる黒田原木炭商組合あり左記二十二名とす

今井四郎、大越巳之助、大島辰之助、大塚亥之助、渡邊純一郎、高久力藏、室井謙治、武藤島吉、植竹千代七、國井兼吉、山田文藏、増淵半治、藤田勇、藤田巳之松、荒井清次郎、有木與平、笹沼敬司、進藤彌次郎、平野源治、薄葉武、鈴木榮、鈴木順彌

眞岡線茂木驛 水戸線なる茨城縣下館驛より分岐せる眞岡線の終點茂木驛は栃木縣芳賀郡木炭同業組合の地區内全産額の六割を占むる主要なる移出地にして、茂木町近在の林地並に逆川、中

川、須藤、市羽の各村の産並に茨城縣の鹽郷方面の産も此の地に集中し消費地に供給され一年移出額三十萬俵と稱せらる、製品は樹齡若き優良樹種を以てし品質佳なるものありて、其包装は茨城の立角に倣ひ多くは立角俵として製出す、品種は櫛、櫛、雜に分ち殆んど丸物のみにて割物少し、量目は櫛正味三貫八百目、櫛正味三貫五百目、雜正味三貫目とせり、而して同地方に於ける木炭は眞岡驛より益子、七井、市塙の各驛を總稱し野州船積物の稱を冠し鬼怒川を川船に下りて東京市場へ供給せらるる當時より聲價を高め櫛丸の如きは宮内省御用品とし買上げられつゝありし程にて今は唯眞岡線の開通と共に交通の便拓けその船積が汽車積と變りしのみ、而も大正十年に設置せられし同業組合は製品の改良に向つて指導に努め検査を等級別に施行し來りつゝあれは寧ろ往昔の面影を脱し面目全然一新し來れるの現象を呈せり

移出商 には三村爲五郎、石島藤平、堀畑罔貞、岡野道三郎、田中林吉、小林庄之進、石河鐵三郎、檜山駒太郎、金塚商店の諸店を主とす

市塙驛 産地は祖母ヶ井、小貝、須藤村の一部にして一年五萬俵を移出す、若木優良品多く尙ほ松炭の産出あり、移出商には芳賀郡木炭同業組合に組長たる平山清次郎氏の商舖地にして他に高木半治、金井徳治、小貝村に平野吉太郎の諸店あり

七井驛 附近一帯の里山林地の外大場山國有林よりの製品なり、鐵道の茂木へ延長せざりし以前は茂木、市塙へ集中せる木炭の全部は此の驛よりせる故年移出額三十萬俵を越ゆることありしも現今にては五萬俵内外なるべし、桐丸三割、檜丸五割、雜及松合せて二割の率なり

移出商 には三村勝吉、菊地吉次郎、菊地信男、小林孝吉の諸店の外市塙驛の平山清次郎氏の稀れに此驛より移出するあり、東京市及市外並に埼玉縣下を主なる供給地とす

益子驛 品質名柄等悉く茂木、七井、市塙と同種にして年額五萬俵の移出あり、移出商には芳賀郡木炭同業組合に副組長として累任せる大山長之助氏の外に飯塚秀治、高橋勝義、大塚榮助の諸店を數ふ

眞岡驛 中村柳川岸方面の全盛なりし當時は相當の移出を見たれども林源の過伐と耕地に更改せられし等の關係より産額を減じ現今にありては此地商人に依つて移出せらるゝ數量は年額二萬俵内外なるべし、移出商には柳仁太郎、菊地安三郎、小宅正二、菊地勝平の諸店を數ふ、尙下館方面の需要に充つべく薪の産出もあり年十萬束内外の少量に過ぎず

栃木縣兩毛線沿線

栃木縣小山驛より栃木町、佐野町、足利市に沿ふて群馬縣高崎市に連絡せる此の兩毛線沿線は往昔は木炭の生産地なりしが今は全く消費地と化し、自郷産の少部分が生産せらるゝのみにて其消費木炭の多くは他縣よりの移入を仰ぐの狀態に推移し來れり、左に主要消費地のみに就き以て述すべし

小山町 下都賀郡小山町は郡内物の少量が荷馬車に依り搬入せらるものあれども多くは秋田、信州、山形、足尾線、岩手、宮城方面より供給を仰ぎ一ヶ年百八十車内外の移入を算す、薪炭問屋には小宮留吉、森田甚四郎、栃木辨次郎、鈴木爲次郎の諸店あり

栃木町 往昔にありては下都賀郡一圓の林地に依つて生産せらるゝものを土地の消費に充つるの外縣外へも移出したれども逐年林源缺乏し現今にては單に寺尾、皆川、赤津、吹上の各村より産出するもの漸く年額四萬貫内外に過ぎず、然るに消費量は年々増加せるを以て同町の到着數量は木炭一年千七百五十一噸、薪五十七噸なるに反し發送移出量は木炭六百三十噸、薪百噸内外に過ぎず供給せらるゝ産地は上都賀郡、粕尾、眞子、清葉、粟野、永野方面の郡内産と、岩手、秋田、山形上州、信州、日向、支那等の縣外移入を仰ぎ居れり

薪炭問屋 には長澤晋次郎、大島廣吉、太田源五郎、鈴木邦次、高山平三郎、竹澤傳次郎、片桐菊治、淺川忠助、大阿久房吉、小館冬吉、大塚啓助、篠塚勝次郎、波多忠七郎の諸店あり

④ 印改良木炭

栃木縣黒田原驛前

會 藤田商會

店主 藤田 勇

④ 印木炭

栃木縣黒磯町

會 藤田寅雄商店

電話黒磯五番

品質—本位

野州芳賀郡產 木炭移出商

栃木縣茂木町

田 中 林 吉

三 村 爲 五 郎 小 林 庄 之 進

石 島 藤 平 石 河 鐵 三 郎

堀 畑 圀 貞 檜 山 駒 太 郎

岡 野 道 三 郎 金 塚 ヨ シ

薪炭製産輸出

栃木縣芳賀郡七井村

商標 會 菊地吉次郎

電話(ヤマキチ)

③ 薪炭輸出商 三村勝吉

栃木縣芳賀郡七井驛前

電話(マル三)又ハ(三)

國際運送取引店

公認 二村運送部

薪炭製造販賣

栃木縣芳賀郡市羽村

會 平山清次郎

電話(ヒラ)又ハ(ヒ)

薪炭生産輸出

栃木縣芳賀郡七井村大澤

マ 菊地倍男商店

木炭移出商

栃木縣那須郡黒磯町

③ 植竹支店

本店黒田原町 電話十九番 略(〇三)

木炭移出商

栃木縣烏山町日野町

大 矢野留松支店

電話(ヤノ)又ハ(ヤ)

佐野町 安藤郡木炭同業組合の組織ありて地區内産の改良に努め居れども生産せらるゝ數量は十貫大俵三貫五百目小俵合せて七萬俵内外の産出に過ぎざると共に土地の需用として秋田、山形、信州、日光線今市、足尾線、東北八戸湊、沼宮内、北海道、支那、九州等の移入あり年額三十五六萬貫の數量を示せり、而して土地需用は漸次増加すると共に生産は減少に傾きつゝある状態を辿る

薪炭問屋 には田尻清七、恵田小三郎、長塚角次郎、梅澤定吉、青木元治、恵田四郎、戸田伍一、須藤朝十郎の諸店あり

足利市 此地に消費せらるゝ量は一ヶ年八十萬貫内外にして唯飛駒村より生産せらるゝ少量のみ他は悉く縣外の移入を仰ぎ、秋田、山形、野州今市、野州本線、東北八戸湊、九州、支那等より荷を引く

薪炭問屋 には山本光三郎、小林軍十郎、長谷川喜三郎、長谷川一太郎、板橋泰松、佐藤秀吉、河内孝三郎、野村芳平、青木要太郎、星野富次郎、伏島合資商會等の諸店を主とす

宇都宮市 栃木縣の首都宇都宮市は縣廳を始め諸官衙、學校等あり、百貨集散の大都市なり薪炭の消費量も従つて多額を算し一ヶ年二十五萬噸内外の數量を算し、秋田、山形、會津、海岸線、北海道、九州等の縣外産と、縣内は日光線今市物、本線物等なり

薪炭問屋—凍氷問屋

栃木縣栃木町祝町六九

商標 **入船** 長澤音三郎商店

電話五〇二番電略(ヲト)

足利市緑町一丁目

薪炭問屋 **今佐藤木炭店**

店主 佐藤秀吉

電話七七四番電略(サト)

栃木縣佐野町

商標 憲 木炭商 惠田小二郎商店

電話佐野三十七番
振替東京七四五五番

憲
商出輸炭木
太忠島森
町山鳥縣木栃

木炭石炭 燃料問屋 小家中屋商店
栃木縣小山町 店主 小宮留吉

薪炭問屋 小 埼玉屋商店
栃木縣小山町 店主 森田甚四郎 電話百四十一番

薪炭問屋 小 杉戸直次郎
栃木縣栃木町 電話(ヤマト)

木炭問屋 和 田直三郎
足利市通四丁目三二一 電話(ワ)又ハ(チオ)

薪炭問屋 小 波多忠七郎
栃木縣栃木町 電話(ハタ)又ハ(ハ)

薪炭問屋 大 阿久房 吉
栃木縣 栃木町

木炭問屋 小 最上商店
栃木縣栃木町 電話六十四番

薪炭問屋 齊 藤 鐵
宇都宮市 清水町三

薪炭 屋 には石川喜太郎、長井卯之吉、齋藤薪炭店、鈴木宗三郎、高津定吉、中山榮藏の諸店を主とす

千 葉 縣

總 說

千葉縣は市原、君津、安房の三郡は産地なれども總武線沿道は悉く消費地にして、現今の狀勢としては其三郡の産地に着目する消費都市の間屋よりも、總武線沿道の消費地に視線を注ぐ荷主多く、消費地は取引の範圍擴大して東北方面の外現今にありては山陰九州に擴まりつゝありて、其の備長代用品として東京市場に歡迎されし長俵の如きも、紀州木場物のために或は支那木炭のために販路を奪食せられて今は黒炭の製出を獎勵し、白消優良品を以て誇れる長俵は次第に跡を絶つ傾向となり、又松薪松炭の特産地として一時は年産額二百五十萬貫中の八割は松薪と稱せられ五十萬俵の二割は松ラクダ炭と唱へられしも、工業方面の萎縮は自然用途を減じ爲に生産激減し、唯上總物と稱する小糸川、姉ヶ崎方面の堅木薪が少量の生産減に止まり辛ふじて現狀を保ち來れるの狀況なり而して木炭一ヶ年の産額は大正十三年度の調査に依れば白炭四十二萬七千七百三十三貫黒炭四百八

十三萬八千七百八十九貫、鍛冶炭十八萬九千三百三十二貫合計五百四十五貫五千六百五十四貫なり、主産地は君津郡にして年産出額百七十萬貫内外に達すべく、特産の白炭は今其全産額の八割まで黒炭に改まり角俵は東北岩手縣に倣へる包装にして量目は正味四貫に統一せり、白炭は正味三貫五百目と三貫目の二様にして、同業組合は各部落に製炭改良講習會を開き、一面には生産検査を厳にしつゝあるが更に豫算を増額して等級別に依る移出検査を實施し其改良と共に販路を擴張せんとの計畫中にある如くなるか、斯く組合の活動は製品の改良を促進し來り現今製出せらるゝ製品は從來のそれに比し面目の一新せられたる正に認むるに足ると謂ふべし本誌は之れより千葉縣の生産地と消費地とに別ち情況の大略を述ぶることとせん

千葉縣の生産地

八幡宿驛 産地は明治、内田、舞鶴の各村にして松薪と雜堅木薪とを産し松薪七分、雜堅木三分の割合にて年産額二十萬束を示す、松炭は大正八九年の交には五萬俵にも達せしことありしと云ふも現今にては僅かに二萬俵内外に過ぎざるべしと云ふ、又桐黒炭の産あれど、土地の消費に充つるのみ

移出商 には石井徳太郎、石井吉次、渡邊理七郎の三店を主となす

五井驛 養老川上流の明治、内田、舞鶴の各村より産す 薪を主とし松三五、堅五分、雜五分の三種にして松堅木相半ばし一ヶ年八十萬束の移出あり薪尺は一尺三寸束廻り二尺とせり

移出商 には矢島秀太郎、石川清次、高澤秀太郎、中島幸吉の諸店を主とす

姉ヶ崎驛 松薪の産地にて一尺三寸束廻り二尺物を産し樹齡は十五六年生れ以てせしも近時原木の減少に伴ひ十二三年の若木を伐採する向多し、一ヶ年二百萬束の産出あり、尙ほ久保田長浦方面よりも同質の製品一年六十萬束の移出あり

移出商 には姉ヶ崎町には廣瀬幸次、石渡政吉、石福平次郎、海保恒次の諸店あり、久保田には高品甚藏商店あり

木更津驛 君津郡木炭同業組合事務所所在地にして又君津郡産出薪炭の集散移出地なり、木炭にして此驛より移出する一ヶ年の數量は黒炭角俵及び黒炭丸俵、紀州式白炭と松炭とを合せ約一萬貫にして、桐五分、檜一割五分、雜六割、松一割、檜一割の率を以てす、薪にありては薪丈一尺四寸束廻り二尺にして品質良好なるもの松と堅木とを取交ぜ一年二百八十萬束を示す、右の外市原郡産の木炭にして此の驛へ出廻るもの十五萬貫の額に達すべきか

移出商 には松崎金吾、梶川儀一、小川國太郎、八幡彌三郎の諸店あり、尙ほ此の地へ出荷せらるゝ薪炭の多くは久留里町を通過するものにして其終點久留里町には鳥井市之助、梶川儀一本店の兩舗あり

小糸川驛 薪の移出地にして一年四十萬束を算す、産地は周南、小糸、秋元の各村にして小糸川の舟楫に依るものと、陸運に依るものとあり、楢、桐、雜にして薪尺は一尺四寸束廻り二尺五分乃至二尺一寸と五分の名稱は五分乃至一寸より胚胎せるものなりと

移出商 には小糸村に鎌田萬吉、松崎萬吉、山田市太郎、溝口小三郎の諸店、周南村に鈴木辨藏商店あり

佐貫 鹿野山、鬼涙山等の資林を原料とせる薪の供給地にして一ケ年二十萬束と稱せられ楡雜相半はし薪丈は一尺二寸五分にして束廻り一尺七寸とせり

移出商 には佐貫町寶龍寺に小川信商店、八幡河岸に錦織定吉、小川長之助、鶴岡に白石保商店あり

上總湊驛 君津郡木炭同業組合地區内なれば木炭は木更津と同品種にして優良品に富み大正十三年度に於て九十七萬八千二百四十四貫の移出あり、薪百萬束を算し薪丈は一尺二寸にして束廻り

一尺六寸とす、木炭の如きは若木を資材とせるを以て品質殊に宜ろしく白炭の如き就中優良なり

移出商 には平野忠太郎、楠見藤二郎、八馬徳藏、八馬政藏、石崎次郎、加藤岩太郎、中島定治渡邊安太郎、高橋次郎吉、石原善太郎、高梨吉藏の諸店を主とす

保田驛 安房郡に屬し北條線沿道にして薪炭の生産移出地なり、一ケ年移出量は薪に於て百二十萬束、木炭五十萬貫を算し黒炭七分白炭三分の割合なり

移出商 には石崎治助、戸田金之助、矢田幸次郎、川崎儀右衛門、宇津木竹治の諸店あり

鴨川驛 産地は吉尾、主基、西條の各村にして、房州長俵として中央市場に迎へらるゝ白炭と、正八貫藁包俵の黒炭とありて、黒炭は地方消費に供せられ移出せず、一ケ年移出量二十五萬貫内外なり

移出商 には前田兼松、久根崎彌吉、西宮由藏、小原己之助、渡邊定次郎、鈴木鶴松の諸店あり

天津驛 正味三貫五百目白炭紀州式長俵を以て知られ年額三十五萬貫と松炭十萬貫並に薪五萬束の外に少量の黒炭をも産出す

移出商 には林倉之助、山下萬吉、麻生清助、白井龜太郎の諸店あり、内浦に杉浦清藏、四方木村に唐鎌覺治商店、老川村に粕谷倉吉商店あり

千葉縣の消費地

東京兩國驛を發し東葛飾郡市川町より千葉市を右に見て銚子に至る沿道總武本線は木炭の消費都市にして、福島縣濱三郡並に田村郡産と棚倉方面の産を主として供給を仰ぎ更に東北八戸湊より岩手縣氣仙郡の産等此の沿道に供給せらるゝに至り最近に至るや山陰線産の著るしく供給せらるゝありて寧ろ現今にては東北産を壓し殆んど全消費量の六割を占むるの趨勢なり、用途は家庭用と養蠶用を主とす、之より市川町より順次案内すべし

市川町 人口既に一萬五千を數へ最近の發展著るしきものありて、料理店の如きも其數を増したれば紀州備長の消費さるゝもあり、納炭には九州を迎へ、家庭用には、信州物を引き、黒炭にありては野州芳賀の柶丸、柶丸の供給もあり、山陰、東北の各地よりも移入せらる

薪炭問屋 坂本元次郎、宇田川商店、石崎勇吉、東北木炭商會、中屋商店、關音三郎、染谷幾藏、高柳商店、福地兼吉の各店にして兼業者を合すれば五十店の多きに達す、更に最近君津郡龜山村の門馬將興氏此地に出店し山陰、東北方面より供給を仰ぎつゝ活躍す

船橋町 沿線中東京千葉間に於ける第一位の消費地にして市川町を凌駕す、供給せらるゝ産地

は東北、山陽、九州、支那に亘り又近時山陰木炭の移入多し

薪炭問屋 石崎勇次郎、鈴木惣太郎、三橋清右衛門、加藤己之助、橋本力藏、永岡安太郎の諸店あり

津田沼町 兵營所在地にして騎兵聯隊あり、鐵道聯隊あり、納炭用及び家庭用とに岩手、福島山陰、九州、支那等の供給を受く

薪炭問屋 森田祐吉、廣瀬商店の兩舗あり

檢見川町 人口五千に過ぎざる海濱に沿へる市街にして市川安五郎商店の獨舞台の地なり主として福島縣海岸線の産を受け、又近時山陰越前の産をも仰ぐ

千葉市 市制布かれしより七年人口三萬五千を算す、はやりにはやる山陰木炭は未だ此地に紹介せらるゝに至らず、堅炭では盛岡産、支那木炭等土産にありては岩手縣産、福島縣濱三郡田村郡産君津郡産等にして中濱三郡の柶丸、雜丸を勸迎する傾向あり

薪炭問屋 植草長吉、吉原良三、片倉屋商店、鈴木爲三郎、秋山泰輔、川島支店、白駒正作の諸店あり

四ツ街道町 印旛郡千代田村に屬し重砲兵隊と航空隊あり、聯隊納入を司る薪炭問屋に大平隆

信、金親商店の兩舗あり岩手縣産と鹿兒島縣産の半白炭等を迎ふ

佐倉町

岩手縣産と山陰物とを相半ばして荷受をなし、又土地産の柶丸等も消化せられつゝあり、薪炭問屋には藤川巳之助、齋藤元治、宍倉商店の三店あり

八街町

福島縣産と岩手縣産とを主として供給を受く、薪炭問屋には齋藤傳、小野寺商店、中村商店あり

成東町

片貝村松尾町方面の養蠶用を含み又東金町にも配給す同町の人口は三千五百に過ぎざれども配給範圍廣ければ相當活躍の餘地あり福島縣海岸線物を主とす、薪炭問屋には川島商店、中村商店の兩舗あり

八日市場町

匝瑳郡の市街にして四近農村養蠶用を背景とせるが故に好望なる消費地を以て注目せられ、青森縣上北物、福島縣濱三郡物、信州堅炭等を主とせるが近時山陰物の供給を受け全消費量の三割にも達すべし、年額五百車の消化力あるの地なり

薪炭問屋

平山彦次郎、伊知地忠吉、柴田鐵藏、増田商店、伊藤商店、小林一、大川茂三郎、鈴木卯太郎、太田浩の諸店あり

隣驛横芝驛には森川平一商店あり

旭町

四近村落の消費者は共同購入の方法に依り問屋より掛にて買入るゝ習慣ありて農村信用組合の如きが責任を負ひ養蠶収入を待つて商品代を支拂ふものなれば薪炭問屋を營むものは相當資金の蓄積を必要とすべしそは單に旭町のみに限られざると雖も、同方面は此の習慣を存續せり、薪炭問屋には網戸の加瀬房吉商店、次に太田の齋藤榮次商店は堅實なる營業振りを發揮し更に驛前に藤野隆治商店あり供給を受くる産地は宮城縣登米郡の産、岩手縣の各地産、最近山陰木炭の移入あり、九州産亦供給せられ、更に八戸湊、棚倉の産も移入す

銚子港

戸數二萬總武線の終點にして小見川、飯岡、松岸、猿田方面へも此地より供給す、薪炭問屋中所有發動汽船を以て岩手縣三陸沿岸より海路移入をなし、一面には汽車積にて東北各地より供給せられ、問屋一軒にて年取扱量三百車以上に達する向もありて、總武線中第一位の消費地なり移入さるゝ木炭の産地は青森、岩手、宮城、福島各縣産を受け、尙ほ北陸方面の産も稀れに入荷あり、最近山陰方面と取引を結ばるゝ傾向となれり

薪炭問屋

富澤昇作、飯島宇一郎、大塚新六、飯田富藏、石橋勝五郎、五十嵐卯之助、大森繁雄、植田要助、樋口直四郎、廣崎宗三郎、汐田常吉、遠藤新七、篠田幸之助

佐原町

成田より乗り替へ四驛目の終點に位せる消費地にして地形の關係より茨城縣行方鹿島

の産川船にて供給せらるゝ量を主とせるも、品質優良なる茨城縣柗丸の産地として知らるゝ秀逸品にては價格高價なる爲に自然東北産を迎ふることゝなり堅炭の用途には支那九州も稀れに供せらる、薪炭問屋には石毛大五郎、大野省三、龜田定四郎、多田伊之助の諸店あり、見逃すべからざるの消費地たり

常磐線方面

松戸町 は千葉縣東葛飾郡に屬し縣下に於ける著名の消費地にして一ヶ年薪炭の入荷量大正十四年度に於て木炭一萬六千二百二十九噸薪八十七噸にして、福島縣濱三郡田村郡産が全消費量の六割を占據し、野州の檜丸柗丸に亞ぐに山陰物、秋田の堅炭、九州、支那木炭等なり、同地の薪炭問屋倉田惣兵衛商店の如き此地消費量の七割を取扱はるゝの優勢を呈し尙ほ市川、船橋、津田沼を初めとし、常磐線の金町、北總線野田町方面を販路とし最近山陰物を旺んに呼びつゝあり、亞ぐに宮田商店、澁谷金次郎商店、福岡商店、高橋一男商店あり

野田町 常磐線を柏驛に乗替て北總線を九哩一分にて終驛たる野田町に達す野田の醬油と俗に謂はれる「龜甲萬」の本場なり人家稠密の市街にして、人口八千を數ふ、海岸物の檜雜共に丸物を

薪炭材木竹類

千葉縣安房郡保田町

石崎商店

店主 石崎治助

電話三十八番

薪炭商

千葉縣君津郡湊町

愈平野忠次郎

電話湊三十四番

薪炭商

千葉縣君津郡湊町

八馬徳藏

電信略號(トク)

薪炭商

千葉縣君津郡湊町

八馬政藏

電話湊十八番

千葉縣君津郡木更津驛前
薪炭問屋 梶川儀一商店
電話木更津七八番、久留里十七番

千葉縣君津郡久留里町
薪炭問屋 鳥井市之助商店
電話三三振東京一八六五

薪炭移出商

千葉縣市原郡五井町

甚 矢島甚次郎商店
電略(ヤシマ)

薪炭問屋

千葉縣松戸町

翁 倉田惣兵衛
電話松戸三十二番

薪炭輸出並に運送

千葉縣市原郡姉ヶ崎町

廣瀨幸次商店
電話二十六番

岩井商店支那温州特約店
諸國木炭輸入問屋

公認 廣瀨運送部
姉ヶ崎驛前 電話四十番

諸國新炭問屋

千葉縣市川町新田

門馬將興
電話市川一五二番

薪炭商 石原善太郎
千葉縣君津郡湊町四〇九
電略(イシ)又ハ(イ)

本店 千葉縣君津郡龜山村

多く消費され岩手縣水澤の堅炭と鹿兒島物の一部は之れを養蠶用途に供せらる、如何でか同地は福島縣海岸物の向くべき所なるかと言はゞ、手近の産地にして注文を發せば直ちに着荷を見ると云ふ急場の間に合ふ便宜な有すべしとのこと、薪炭問屋は左の諸店なり

荒木源次郎、色川菊之助、荒木藤吉、中村芳三郎、飛田新藏
運河驛には荻原商店あり

我孫子町 成田線の交叉點にして料理店旅館の營業者多き故に比較的本炭の消費あれど町は到つて人口少なき爲め野田町と同じく濱三郡物主とするのみ驛前に小熊覺太郎氏あるのみ

茨城縣

茨城縣に於ける主要産物たる薪炭の種類は木炭にありては白炭柶、櫨、雜、黒炭柶、櫨、雜、松薪、堅木薪、松炭の各種にして産額の順位よりせば多賀、久慈、西茨城、東茨城、新治、那珂、鹿島、眞壁、稻敷、筑波、行方、結城、猿島、北相馬の各郡なり而して消費地より茨城縣へ注目する製品は通稱佐倉炭と稱する柶丸を以てし、品質よりせば鹿島郡産を優位に東西茨城方面産を次位とし市場に弊價の認めらるゝものあり、而して縣は明治三十八年以降製炭教師を聘し縣下各地に亘つて改

良技術を普及し次いで大正六年に至り木炭同業組合設置の必要を唱導し大正八年二月愈々縣を一丸とせる茨城縣木炭同業組合の設置を見て其年十一月十五日より縣下一齊に亘つて木炭の検査を實施し爾來組合の運用を全からしめ、黨元指導の爲に巡回教師を特置し探長補短他縣の長を探らんが爲には視察員を縣外に派遣する等、而して縣下を一丸とせる木炭共進會の如きも二回に亘つて開催し來れる如き現今にありては全國中黒炭の覇を以て消費地を風靡するの情勢を呈しつゝあり、其木炭一ヶ年の産額は各種を通じて四百三十四萬八千五百四十四貫は大正十三年の數量にして、又薪にありては桐三本二ヶ、又は十二本、松にありては大中小の才、引三、五本ヶ等の銘柄に別たれ、一ヶ年産額松薪千二百二十七萬九千九百三十九貫、桐薪三百三十九萬三千三百一十一貫、桐薪四百四萬三千九百四十束の數量なり而して此の産額は大正六年以降大正十二年に亘る平均數量なり、同縣下各移出地は中央市場を巨る極めて近距離にして問屋と荷主との往還多ければ本誌を以て特に案内するの要を認めざるが如きも不案内者の爲に主要地のみを略述すと共に一面同縣下消費地にありては需要の増加に伴れ取引の範圍各地に擴大せる傾向なれば本誌は唯他縣産の移入を待ちつゝある著名市場のみ案内することゝせん

銚田町

鹿島郡銚田町は桐丸及び堅木薪、松薪の移出地にして、縣下中最も優良品を以て誇るの

地にして、尙此地に行方郡産も集散し恰も霞ヶ浦が細く縫ひ込み佐原方面より東京市場へかけて河水の上を運び來る便ありて東京市場にありては此の川船に依り移入するものを川物と稱し居れり、今銚田へ集散せらるゝ産地は郡内は巴村方面を最多とし次に徳宿、大谷方面と東茨城郡の一部曰河方面の産が集中せらる、同方面の品質佳良なるは樹質良種樹齡八年十年を程度とし製炭の技術も亦た進歩し居れるが爲なり、産額にありては一年十萬俵を下らざるべく巴村鬼澤衛氏は一店のみにても年移出額四萬俵を示すべしとあり、移出商には銚田町に渡邊七之助氏を筆頭に高橋、渡邊、荒野の各店あり、巴村に鬼澤衛、新堀萬次郎、新堀亥之助、山口彦之助の諸店あり、大谷村に小沼福松商店あり、薪にありては大同村の巨商菅谷茂衛左門氏を筆頭に、白河村の江川森之助、巴村の新堀萬次郎の各店にして一年二百萬束之を貫にして百五十萬貫となるべし、松薪は新治物を首位とし次ぐに行方物、鹿島物と云ふ順序なるが如し

笠間町

西茨城郡にして水戸線沿道なり産地は國見山八瓶山の麓の官有林にして稍々豊富の状況なり外に民有林もありて、樹種は桐、楡、雜木、松の類にして樹齡は十五年乃至三十年程度のもの多し、生産業者は農の副業に従事するものにして初秋より三月頃にかけて製出し業者は殆んど尠なし、同驛年額移出量は木炭二千三百噸薪も同量なり、桐丸の如きは銚田に亞ぐの優良品を出し

正味三貫八百目にして立角俵多し薪は大才小才三五にして堅木は三本、十二本物として知らる
移出商 瀧野幸助、池内覺兵衛、深作平太郎、山口吉四郎、須田楨之助の各店を主とす

茨城縣の消費地

取手町 常磐線にして人口五千の市街地なるも龍ヶ崎町と相馬町方面に販路を保有し養蠶用木炭の消費多きを以て相当多額の消化ありて福島縣濱三郡物に次ぎ縣南棚倉角俵と岩手縣産角俵を主とす、又縣内産としては稻敷、筑波の兩郡よりの供給あり然れども相場の關係より需用少く一部分に限らる、堅炭にありては最近横濱市の特約店ありて支那木炭を供給するあり、九州産の入荷もあり薪炭問屋には天津五三郎、倉持多藏の兩店とす

藤代驛 取手町を距る一里北相馬郡相馬町に屬し同町には富農商會あり卸小賣を營む

土浦町 霞ヶ浦海軍航空隊あり人口二萬五千の消費地なり眞鍋町を併せて市制を布かんとするの股賑ぶりを發揮し薪炭の消費量は家庭用の外四邊農村の養蠶用に供給するあるを以て其量亦多し岩手縣宮古、一の關、朽木、福島の各地産供給せられ最近山陰木炭の入荷あり、九州よりも移入せらるゝあり

眞鍋町 土浦町に隣接し人口七千五百、消化木炭も土浦町と同様同種なり、兩町に於ける薪炭問

屋の主なるは左の諸店なり

土浦町 栗山衆二郎、名雪利助、矢口盛之助、濱田菊之進、飯野文次郎、清家敬、坂寄啓藏

眞鍋町 中桐市太郎、酒井重四郎、掛巢峰次郎、安藤彦輔

龍ヶ崎町 市街は小なれども附近の村落は養蠶家多き爲めに消化量多く、堅炭と楷割の販路を有し北海道木炭も稀れに供給せらる、現在にありては支那、鹿兒島等の移入もありて春秋二期一時に仕入するの傾向なり之れ養蠶用を主とせるが爲なり、薪炭問屋には海田軍之助、栗田商店、澤春二の諸店を主とす

茨城縣常總線沿線

取手より下館へ通ずる常總鐵道は延長三十一哩九分、此の沿線中、水海道、石下、下妻の三驛は養蠶用として各地より移入を見る、殊に最近は備後堅炭が此の三驛に入荷され、其量全數量の五割を占有するに至れり之れ値段の格安に依るべし廣島木炭は需要者側の嗜好に適し獨占的の地歩に向ひ販路擴張されつゝあり、養蠶用七割、製茶用三割の率なり、他に濱三郡と棚倉より供給あり縣内産

檜丸立角は一部上流の消費に充てらる、薪炭問屋には左の諸店あり

水海道町 比佐馨三、田中喜助、北村岩吉

石下町 稻葉支店、石山商店

下妻町 飯岡熊吉、國府田商店、松本商店、小橋商店

結城町 は結城郡の市街にして附近は製茶の地なり、岩手、青森、宮城、福島、九州、北海道の各地より供給を仰ぎ、最近山陰木炭の移入ありて石川江津商業株式會社の如きは天笠忠三郎商店を特約店とせり、全消費量六十萬貫を算す、薪炭問屋には押野徳藏、田村宇一郎、天笠忠三郎、石島藤平の諸店あり

下館町 眞壁郡の首邑にして水戸線の沿線に位し眞岡線の分岐驛なり、人口一萬土地の消費四近の養蠶用に供用せらる、年消費量七十五萬貫を算し、秋田、山形、福島、岩手、山陰、九州の産移入あり、尙ほ芳賀郡産も供給せらる

薪炭問屋 には涉部藤吉、石川貞一郎、安達新五郎、濱野屋商店の諸店あり

古河町 猿島郡にして東北本線の沿道なり人口一萬七千のり近在養蠶用と製茶用に消化さるゝ量多く家庭用と合せ一年六百車内外の入荷あり、岩手縣の産、福島縣會津方面の産を主とし近時山

| | |
|--|---|
| <p>薪炭製茶 天笠忠三郎 茨城縣結城町 電話略(アマ)</p> | <p>問木屋 今泉市太郎商店 茨城縣古河町八幡町 電話(イマ)又ハ(イチ)</p> |
| <p>薪炭 富岡義一郎商店 茨城縣古河町鍛冶町 電話七十七番</p> | <p>木炭問屋 坂彦商店 茨城縣古河町三神町 店主 佐藤松太郎</p> |
| <p>薪炭 宇井伴司商店 茨城縣古河町西片町 (東洋煉炭製造所)</p> | <p>問木屋 木本平之助商店 茨城縣古河町一丁目 電話(キモト)又ハ(キ)</p> |
| <p>薪炭 川島伊助商店 茨城縣古河町 電話(カワ)又ハ(イ)</p> | <p>問木屋 田中喜助商店 茨城縣常總線水海道町 (文化煉炭製造) 電話百六番</p> |
| <p>問木屋 鈴木啓次郎商店 茨城縣古河町 電話 二三五番</p> | <p>薪炭 栗山糸二郎 茨城縣土浦町 電話(クリ)又ハ(ク)</p> |

木炭問屋

茨城縣結城町

安達新五郎商店

電話結城六九番
振替東京四七九〇九

木炭問屋

茨城縣下館町稻荷町

石川貞一郎

電話二二三番

木炭問屋

茨城縣下館町

安達新五郎商店

電話略(アタチ)

木炭石炭製茶

茨城縣結城町

田村宇一郎商店

電話略(ヤマタ)

薪炭問屋

茨城縣下館町

渡部藤吉

電話一五五番

木炭商

茨城縣結城町大橋町

新井松次郎商店

電話略(アラ井)又ハ(ア)

近時山陰木炭の入荷するもの多く又北海道産の供給多くして道産のみにても年七十車の多きを算す

薪炭問屋 今泉市太郎、木本平之助、坂彦商店、宇井伴司、川島伊助、鈴木啓次郎、富岡義一郎の諸店を主とす

營業科目

各種煉炭
製造販賣
附屬器具
ストーブ類
各國木炭
直輸販賣
朝鮮無煙
粉炭販賣

朝鮮無煙炭鑛株式會社代理店

川澄煉炭株式會社代理店

東京煉炭製造所

營業所 東京市京橋區桶町七番地
電話京橋六九八四番

貯炭所 東京市外大島町釜屋堀
(大島橋詰)

日華煉炭製造元

各種煉炭 埼玉縣深谷町

煉炭原料

諸國木炭

卸問屋

藤森誠商店

電話深谷 一二二九番

一日製造能力五萬個—特約店募集

東京市場問屋案内

東京市場へ入荷する木炭の數量を鐵道省が最近(大正十三年度)調査せる數量に依れば四十九萬五千二百四十八噸にして、九千萬貫を超えるの巨額なり之を大正三年頃に比せば殆んど倍額に達せり薪にありては八萬四千六百三十二噸なり而して木炭の供給せらるゝ産地は大正三年の交は東北地方を主とし一道十五六縣下の産に過ぎざりしが現今にありては大様左の如き範圍に擴大せり就中島根縣の如きは昨大正十四年よりは著るしく其量を増加せる狀況にして未だ纏まれる數字に接せざるも現今にては五六萬屯にも近かるべく知る。(單位噸)

| | | | | | | | |
|------|-------|-----|-------|------|-------|-----|-------|
| 福島縣 | 八六四四九 | 岩手縣 | 七四六四〇 | 栃木縣 | 五二四九九 | 秋田縣 | 三六三三三 |
| 長野縣 | 一四六八五 | 宮城縣 | 一四一九五 | 新潟縣 | 一一七五八 | 宮崎縣 | 一一二六七 |
| 群馬縣 | 一〇八一九 | 島根縣 | 一〇三二七 | 北海道 | 九三八四 | 山梨縣 | 九一二七 |
| 東京府 | 八四四八 | 青森縣 | 八三四三 | 静岡縣 | 六五九四 | 山形縣 | 五二一九 |
| 神奈川縣 | 五二七八 | 福井縣 | 四三〇八 | 茨城縣 | 七九三六 | 富山縣 | 四一一五 |
| 埼玉縣 | 四〇六六 | 石川縣 | 三八七八 | 鹿兒島縣 | 三七四八 | 熊本縣 | 二四一五 |

| | | | | | | | |
|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 山口縣 | 二三五一 | 千葉縣 | 二二〇五 | 愛知縣 | 一九二五 | 鳥取縣 | 一七八一 |
| 廣島縣 | 一〇三三 | 大分縣 | 一〇五〇 | 大坂府 | 六四九 | 岐阜縣 | 七五一 |
| 兵庫縣 | 六五八 | 京都府 | 三五六 | 三重縣 | 二七三 | 福岡縣 | 二五三 |
| 鮮滿 | 三七六 | 滋賀縣 | 二二四 | 岡山縣 | 二六六 | 長崎縣 | 一七〇 |
| 香川縣 | 三八 | 奈良縣 | 三四 | 愛媛縣 | 八 | | |

以上は汽車積に依るものにして此外船舶に依る和歌山縣産、静岡縣賀茂郡、茨城縣鉾田方面の船積川物、支那、臺灣等あり、而して東京薪炭問屋同業組合の調査にかゝる大正十三年度の驛別に依る數字は左の如し但中央線中野方面と總武線の二三驛入荷量は本表外なり

| | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 秋葉原驛 | 八七八一 | 隅田川驛 | 七三三八 | 新宿驛 | 四三一〇 | 錦糸町驛 | 三二八六 |
| 飯田町驛 | 二二九八 | 品川驛 | 一八二六 | 汐留驛 | 一七六二 | 大崎驛 | 一七〇三 |
| 澁谷驛 | 一七〇〇 | 池袋驛 | 一五三六 | 惠比壽驛 | 一五二六 | 巢鴨驛 | 一四五〇 |
| 北千住驛 | 一〇八七 | 龜戸驛 | 九九六 | 目白驛 | 八七三 | 王子驛 | 八〇六 |
| 板橋驛 | 七六七 | 田端驛 | 六五八 | 大塚驛 | 四八五 | 三河島驛 | 三六六 |
| 兩國驛 | 一五〇九 | 原宿驛 | 九〇 | 信濃町驛 | 八二 | | |

紀州木炭問屋

東京市京橋區本八丁堀三丁目五番地

福 木炭問屋 福田 商店

店主 福田 五平

電話京橋一九八七番

紀州木炭問屋

諸國木炭取扱

東京市京橋區本港町二番地

◎ 木炭問屋 熊儀商店

店主 秋田 豐藏

電話京橋 五四八五
二二七〇番
二八八二

諸國薪炭問屋

東京市芝區本芝四丁目二十九番地

商標 小池新太郎商店

電話高輪 三三六一
三三六二番
四五一

諸國薪炭問屋

東京市神田區佐久間町一丁目十番地

商標



合資會社

丸

若

商

店

代表社員

大橋忠三郎
若林儀三郎

電話淺草一六二六番
五九二九番

三井物産直輸入温州木炭特約元賣捌所

諸國薪炭問屋

東京市神田區佐久間川岸(萬世橋際)

三河屋號

商標



橋

本

長

兵

衛

電話下谷一〇五三番

東京市本所區柳島元町二四四番地

薪炭問屋 大澤欽治商店

電話墨田 二二二五番

振替口座東京二六七三〇番

東京市神田區花房町二番地

薪炭問屋 奥山商店

電話下谷 三〇三番

振替東京三四〇一九番

登錄商標 **幸**

薪炭(清)問屋

東京南千住町八百六十番地

能登屋本店

店主 片田梅松

電話淺草一一八三番

東京向島鐘ヶ淵驛前

能登屋分店

店主 片田清太郎

東京向島寺島町曳船驛前

能登屋支店

店主 片田茂八

諸國薪炭問屋大矢勘一郎

東京隅田川驛前

大矢商店

電話淺草長二六五番

振替東京八七二七番

三井物産直輸入温州木炭特約元賣捌所

薪炭問屋

東京市淺草區淺草町四十番地

幸手屋本店

倉長谷川由右衛門

電話淺草一二九二番
電略(ハセ)又ハ(ハセ)

東京北千住町二丁目四十七番地

幸手屋支店

倉長谷川子之助

電略(サ)又ハ(ハセ)

木炭製産移出立木販賣

大竹式黒炭角俵製出

④ 共榮土地株式會社山林部

事務所 青森縣東津輕郡東平内村東北本線小湊

主任 堀田文八

營業所 東京府下王子町堀の内神戸棧橋會社内

主任 吉弘宏

電話 小石川五四六一番
王子六八八番

三井物産直輸入温州木炭元賣捌所

東京市本所區徳右衛門町八番地

◆木炭問屋中 金本店

店主 中村 金藏

電話本所三三四九番

出張所 福島縣海岸線龍田驛前

薪炭問屋

東京市下谷區入谷町三五七番地

商標 今 駿河屋號 古地 福松

電話下谷 五三一二番

振替東京二九四九〇番

東京市神田區和泉町一番地

薪炭問屋 今野 州 屋 本店

店主 三村 六郎

電話淺草六一七番

諸國木炭問屋

東京市本所區相生町一丁目九番地

糸 宮古屋 小野澤 保治郎

電話墨田二六八二番

東京市淺草區山川町二番地

薪炭問屋 青山商店

電話淺草五三一一番

東京市淺草區山川町一番地

薪炭問屋 上原梅三郎

電話淺草一二七九番

東京市淺草區馬道町七丁目六番地

薪炭問屋 稻見商店

電話淺草六九二番
振替東京 一五九一六番

東京市淺草區千束町二丁目二九四番地

傘薪炭問屋 島屋藤次郎

電話淺草二四〇一番

東京市淺草區花川戸町六六川岸通

源 薪炭問屋 稻垣源吉商店

電話淺草一〇四四番

東京市芝區白金三光町百八番地

仙臺屋號

薪炭問屋 村上源三郎

電話長高輪 七一六一番
電略 (ムラ)又ハ(ム)

東京山手線惠比壽驛前

薪炭問屋井合商店

店主 井合 俊作

電話長高輪 六九七五番

東京山手線惠比壽驛前

今炭薪炭問屋三上商店

店主 三上新次郎

電話高輪七七四七番
電略(ミ)又ハ(ミカミ)

東京市京橋區本八丁堀三丁目四番地

木炭問屋小峰瀧藏商店

電話京橋六〇〇八番
電信略號(ヨミネ)

東京市芝區日出町九番地

薪炭問屋鈴木木商店

鈴木 孝助
電話高輪四三三七番

東京市下谷區練塀町(秋葉原驛前)

薪炭問屋 加藤梅松商店

電話下谷 三四五六番
振替東京六二三八一番

秋田縣木炭輸出商

秋田縣仙北郡刈和野驛前

生產輸出 加藤隆吉商店

東京市淺草區小島町十一番地

薪炭問屋 大津屋商店

店主 福田甚吉
電話淺草 六七八八番

東京市神田區松住町一番地

薪炭問屋 室田正之助

電話下谷 二九七七二番
二八七二番



木炭問屋

石井信吉商店

東京市本所區相生町五丁目北堅川岸

電話本所九四一番

住宅 京成電車菅野停留場前



薪炭問屋

川幸商店

東京市本所區錦糸町驛前

店主 木暮清六

電話墨田四二五一番



薪炭問屋

佐川屋商店

東京山手線惠比壽驛前

店主 佐川勤實

電話高輪七七三六番

東京品川町字北品川十二番地

薪炭問屋

永田采次郎商店

電話高輪 三三二六番

薪炭石炭コークス問屋

東京市芝區新堀川岸四十三號地

常陸屋號 小野三光商店

電話高輪四三九八番

倉庫 芝浦日之出町九番地

東京市芝區松本町川岸通四十六番地

① 薪炭問屋 柳川孟夫商店

電話高輪二六八八番

紀州木炭問屋

東京市淺草區三好町十番地(厩橋際)

商標 坂本久藏商店

電話淺草三四八二番

木炭商村田商店

東京市日本橋區藥研堀町九番地

電話浪花 三三〇四番
九〇七番

東京府下代々幡町幡ヶ谷八六〇番地

鈴木屋號

薪炭問屋 鈴木伊三郎

電略(ススイ)又ハ(ス)

東京山手線新宿驛前

紀伊國屋號

薪炭問屋 田邊鐵太郎

電話四谷百七番

三井物産直輸入温州木炭特約元賣捌所

東京市京橋區本湊町七番地

木炭問屋 丸治商店

店主 安原元之

電話京橋一二五三番

東京新宿驛前(千駄ヶ谷九七九番地)

薪炭問屋 同益商店

店主 清水兵藏

電話四谷七一七番
振替東京三二八〇番

會津秋田北海大俵問屋

東京市麴町區飯田町六丁目二十四番地

相馬屋 相馬清造

東京市京橋區木挽町一丁目十一番地

三河屋號

三 薪炭問屋 三浦一郎

電話銀座六七〇九番

電略(三三一)又(三三)

東京市深川區西六間堀町十一番地

木炭問屋 小野吉右衛門

電話墨田三三六四番

薪炭石炭問屋

東京府下赤羽驛字袋

全岩井商店 岩井喜太郎

電話二〇番 振替四五五九七番

東京市神田區三崎町三丁目一番地

薪炭問屋 ㊦天野商店

店主 天野聖資

電話四谷六九三四番

東京市神田區美土代町四丁目五番地

薪炭問屋 村田屋本店

店主 杉山直次郎

電話神田二八〇九番

櫻印煉炭製造販賣元

東京麻布飯倉五丁目

野田屋號

炭問屋 山口商店

店主 山口健治郎

電話青山一五七八番